



京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部

# 地域連携報告書

光華女子学園

# 環境報告書

平成 28 年度版



学校法人光華女子学園

## Index

### 地域連携報告書・環境報告書

1. 建学の精神に基づいた地域連携と環境教育	01
2. 光華女子学園の概要	02
3. 地域連携推進センターと環境教育推進室の役割	03

### 地域連携報告書

4. これまでの地域連携活動	04
4.1 地域との連携協定締結	05
4.2 科目「産官学連携プロジェクト」	06
4.3 右京区まちづくり支援制度 <small>からくれない</small>	07
① これまでの採択状況	
② 採択団体「京炎そでふれ！華羅紅」の活動	
4.4 学まちコラボ事業	11
① これまでの採択状況	
② 採択団体「光華三条ガールズ」の活動	
4.5 公開講座	13
4.6 地域イベントへの参画	15
① これまでの地域イベントへの参画状況	
② 右京区民ふれあいフェスティバルへの参画	
4.7 災害ボランティアと右京区総合防災訓練	17
4.8 短期大学部学生リーダー組織「D*Light」の取組	18
① 「京の水カフェ in Zoo」の活動	
② 高知県嶺北地域の活性化	

### 環境報告書

5. エコキャンパスの推進	20
5.1 学園における各種エネルギーの使用状況	21
① 電気エネルギー消費量	
② ガスエネルギー消費量	
③ 水道使用量	
④ ガソリン消費量	
⑤ 軽油消費量	
5.2 エコキャンパスの推進に向けた取組	27
① KOKA エコアワード	
② 省エネルギーに向けた活動	
③ 廃棄物削減に向けた活動	
④ 太陽光発電	
6. 各校園の環境教育、環境活動	33
6.1 光華幼稚園	34
① 野菜の栽培収穫・ピザ作り（食育）	
② 米袋を再利用して野菜の栽培	
③ 廃材を利用した作品製作（版画・張り子等）	
④ 幼稚園内でのごみの分別強化	
6.2 光華小学校	38
① エコクッキング（家庭科の調理実習）	
② ペットボトルを利用した生活科の学習（アサガオ栽培等）	
③ 授業（図工・英語）におけるエコをテーマにした学習	
④ 環境委員会による取組	
6.3 京都光華中学校・高等学校	42
① 環境美化委員ごみ分別チェック隊	
② KSP バイオエタノール講座	
③ KSP 放射線疫学講座	
④ KSP エコセッケン計画	
6.4 京都光華女子大学・短期大学部	45
① 京都府立東稜高等学校との連携事業	
② 科目「シチズンシップ」における環境教育	
③ 科目「地域環境学」におけるフィールドワーク	
6.5 地域と連携した環境活動	49
① 「京☆しかミーツ」による鹿肉料理研究活動	
② 「竹サークル」による竹林整備事業	
③ 公開講座「地球環境問題」	
④ エコクッキング～大根一本使い切れ～	

### 1. 建学の精神に基づいた地域連携と環境教育



光華女子学園は、平成28年に学園創立76周年を迎え、これから80周年、さらには100周年に向けて、地域に根差した価値ある学園をめざし運営していく所存であります。一般的に、これまでの大学は地域を必ずしもパートナーとして認識していたわけではなく、地域にとっても大学は遠い存在と見なし、両者が互いに影響し合う場面は少なかったように思います。大学は教育研究機関の中核であり、研究機関や大手企業を連携先として認識してきました。それは大学にとって、地域との連携を推進することが、教育研究の充実につながるということを想像できなかったからかもしれません。

しかし、近年、地域と大学が協力したまちづくりが積極的に推進され、これまで想像できなかったような多くの成果が生まれています。このような流れの背景には、地域と大学が互いの存在を無視しては生存し難い時代になっていることが考えられます。少子高齢社会の進展は、農業を含む多くの産業の担い手不足を招いています。大学においても、18歳人口の減少による入学者数の激減、国の慢性的な財源不足による大学へのサポートの漸減、さらには長期的な景気の低迷は大きな課題となっています。そこで、地域は大学が有する「知」や「人」を求めようになり、一方大学も、立地する地域に対して大学の存在意義を示し、地域と協力関係を築くことが今後の大学運営を左右すると認識するようになったのです。

ところで、光華女子学園は、故大谷智子裏方が、昭和14年に「仏教精神に基づく女子教育」をご発願になり、東本願寺をはじめ有縁の方々から物心両面の支援を受けて、昭和15年4月、光華高等女学校を開学しました。その建学の精神は、経典『仏説観無量寿経』の水想観にある一説「其光如華又似星月懸處虚空（そのひかりはなのごとし、またしょうがつのこくうにけんしよせるににたり）」にちなみ、清澄にして光り輝くおおらかな女性を育成するにふさわしい名称として名づけられた校名「光華」と校訓「真実心」—み仏の心（慈悲の心、おもいやりの心）—に込められています。このような校名・校訓が意味するものは、現在の地域連携に向き合う際に、極めて重要なメッセージが込められていると言えます。

光華女子学園では、このような仏教精神に基づき、幼稚園から大学院までの一貫教育を行い、その学齢に相応しい地域連携を展開しています。特に大学・短期大学部には、平成25年4月に地域連携推進センター（Center for Regional Collaboration: 通称CRC）を設置し、地域と連携した教育・研究活動を全学的に推進しています。また、近年の環境問題の深刻化に対し、環境人材育成の観点から貢献できることを願い、同センター内に環境教育推進室（The Environmental Education Office: 通称EEO）を設置しました。ここでは、幼稚園から大学院までの環境教育を統括すると同時に、学齢を超えた環境教育連携に取り組んでいます。これからも、建学の精神に基づいた女子教育と総合学園であることの強みを生かし、地域から存在がさらに大きく期待される学園運営と環境教育に取り組んでまいります。

光華女子学園 学園長・理事長 阿部敏行

## 2. 光華女子学園の概要

光華女子学園には、京都光華女子大学のほか、京都光華女子大学大学院、京都光華女子大学短期大学部、京都光華高等学校、京都光華中学校、光華小学校、光華幼稚園があります。

### 【沿革】

- 昭和14年09月15日 財団法人光華女子学園設立認可 光華高等学校設置認可  
 15年04月01日 光華高等女学校開設  
 19年03月11日 光華女子専門学校開設 数学科、生物科、保健科を設置  
 20年03月29日 高女同窓会「激清会」発足  
 22年03月15日 女専同窓会「ふかみくさ」発足  
 22年04月01日 学制改革により光華中学校開設（光華高女より）  
 22年10月10日 光華女子専門学校保健科を生活科に改称  
 23年04月01日 学制改革により光華高等女学校開設（光華高女より）  
 25年04月01日 光華女子専門学校を光華女子短期大学に移行 文科、家政科を設置  
 26年02月28日 学校法人光華女子学園設立認可  
 29年04月17日 光華衣服専門学校開設  
 39年04月01日 光華女子大学開設 日本文学科、英米文学科を設置（短大文科を移行）  
 40年04月01日 光華幼稚園開設  
 43年04月01日 光華小学校開設  
 62年04月01日 短期大学、家政科に生活科学専攻と生活文化専攻を設置  
 平成元年11月15日 総裁大谷智子裏方選挙（83才）  
 03年04月01日 真宗文化研究所開設、情報教育センター開設  
 05年04月01日 短期大学、家政科を生活学科に改称  
 06年04月01日 大学、文学部に人間関係学科を開設  
 06年11月22日 光華衣服専門学校廃校  
 07年04月01日 短期大学、生活学科に4専攻を設置  
 09年04月01日 短期大学、生活学科に栄養専攻を設置  
 10年04月01日 光華女子大学大学院開設  
 文学研究科（修士課程）、日本語日本文学専攻、英語英米文学専攻  
 を設置  
 12年04月01日 光華女子短期大学、生活学科を光華女子大学短期大学部 生活環境  
 学科に改称  
 光華女子大学、日本文学科を日本語日本文学科に改称  
 英米文学科を英語英米文学科に改称  
 13年04月01日 光華女子大学大学院、光華女子大学、光華女子大学短期大学部、光  
 華高等学校、光華中学校を京都光華女子大学大学院、京都光華女子  
 大学、京都光華女子大学短期大学部、京都光華高等学校、京都光華  
 中学校へ校名変更  
 大学、文学部、人間関係学科を改組、人間関係学部・人間関係学科  
 を設置  
 14年04月01日 短期大学部、栄養専攻、食生活専攻を改組、大学、人間関係学部  
 に人間健康学科を設置  
 15年04月01日 大学、人間関係学部は社会福祉学科を設置  
 16年04月01日 大学院に人間関係学研究所（修士課程）を設置  
 京都光華女子大学カウンセリングセンター（人間関係学研究所附属  
 施設）開設  
 17年04月01日 京都光華女子大学エクステンションセンター開設  
 18年04月01日 短期大学部、生活環境学科を改組、ライフデザイン学科を設置  
 ライフデザイン学科「地域総合科学科」適格認定  
 短期大学部にこども保育学科を設置  
 20年04月01日 大学、人間関係学部を人間科学部に改称  
 大学、英語英米文学科を国際英語学科に改称  
 大学、人間健康学科を健康栄養学科に改称  
 22年04月01日 大学、文学部、人間科学部を改組、人文学部、キャリア形成学部、  
 健康科学部を設置  
 人文学部に文学科、心理学科を設置  
 キャリア形成学部はキャリア形成学科を設置  
 健康科学部に健康栄養学科を設置  
 23年04月01日 大学、健康科学部に看護学科を設置  
 25年04月01日 大学、健康科学部健康栄養学科に健康スポーツ栄養専攻を開設  
 地域連携推進センター・環境教育推進室を開設  
 26年04月01日 大学、健康科学部に医療福祉学科（社会福祉専攻・言語聴覚専攻）、  
 心理学科を開設  
 大学院、人間関係学研究所を心理学研究科に改称  
 27年04月01日 大学院に看護学研究科を設置  
 短期大学部 こども保育学科を改組、大学、こども教育学部 こ  
 ども教育学科を設置  
 28年04月01日 女性キャリア開発研究センターを開設

### 【学生・生徒・園児数（2016年5月1日 現在）】

大学院	23人
大学	1,607人
短期大学部	205人
高等学校	568人
中学校	134人
小学校	315人
幼稚園	212人
合計	3,064人

### 【教職員数（2016年5月1日 現在）】

区分	専任等	非常勤等	合計
大学院・大学	107人	147人	254人
短期大学部	11人	15人	26人
高等学校	39人	25人	64人
中学校	13人	4人	17人
小学校	20人	1人	21人
幼稚園	16人	2人	18人
職員	99人	46人	145人
合計	305人	240人	545人

### 【キャンパス】

光華女子学園のメインキャンパスは、京都府京都市右京区にある西京極キャンパスです。西京極キャンパスには、国道9号線（五条通り）を挟み、北校地に大学院、大学、短期大学部、幼稚園が、南校地に高等学校、中学校、小学校が設置されています。西京極キャンパスのほか、大原野グラウンド・花の寺グラウンド（西京極キャンパスから車で17分）があり、体育の授業や地域への開放等を行っている運動施設があります。

#### ◆校地面積（2016年5月1日 現在）

北校地	24,481.38㎡
南校地	18,823.00㎡
大原野グラウンド	14,308.00㎡
花の寺グラウンド	14,160.61㎡
合計	71,772.99㎡

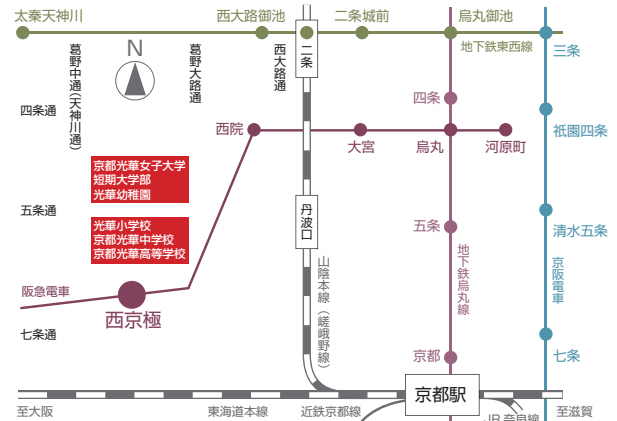
#### ◆校舎面積（2016年5月1日 現在）

北校地	37,345㎡
南校地	23,092㎡
大原野グラウンド	436㎡
合計	60,873㎡

### 【所在地】

〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38

最寄りの阪急京都線「西京極」駅から住宅街を抜け徒歩約7分





### 3. 地域連携推進センターと環境教育推進室の役割

地域連携推進センター（CRC）は、京都光華女子大学・同短期大学部と京都市、特に本学が立地する右京区を中心とした地域と連携し、産官学連携による地域の活性化、環境教育やエコキャンパス化による地域との共生などの推進をはかる拠点として平成25年4月に設置されました。

近年、大学には地域が抱える課題を大学が有する教職員や学生などの人材をはじめ、教育研究活動で培ってきたさまざまなノウハウなどの知的財産を活用することによって、地域と一緒に解決する役割、すなわち地域再生・活性化の核となることが期待されています。本学におきましてもCRCが中心となり、医療や福祉、リハビリ栄養管理といった地域に暮らす人々の健康に関する課題をはじめ、子どもの学び支援や商店街・地元企業の活性化、生涯学習、環境問題など、さまざまな課題解決に向けた取り組みを進め、京都市や右京区といった地元地域に対する社会貢献を進めていきたいと考えております。

環境教育推進室（EEO）は、学園全体としてエコキャンパスの創造に取り組むと同時に、地域の環境問題解決に貢献していくことを目的として、CRC内に同時期に設置されました。これまで光華女子学園が幼稚園から大学院までの一貫校であることの強みを生かし、それぞれの学齢に合わせた環境教育・地域と連携した環境活動を展開してきております。さらに、学園創立70周年を機縁として毎年開催されてきた「KOKAエコアワード」は、EEOと学園運営部が連携した運営により、園児から学生までがエコに関する作品を発表する場として、今年度で7回目を迎えることができました。

CRCとEEOは設置されてまだ日の浅い組織ですが、その活動実績は確実に蓄積され、地域に還元されつつあります。本報告書は、大学・短期大学において、これまで継続的に実施された地域連携活動や今年度から始まった特筆すべき活動、そして、今年度の幼稚園から大学までの環境教育・環境活動の一部をまとめたものです。一人でも多くの地域の方々に本書を手にとっていただき、ご関心いただけますと大変ありがたく思います。



京都光華女子大学・同短期大学部  
地域連携推進センター長 環境教育推進室長  
高野 拓 樹



## 4. これまでの 地域連携活動





## 4.1 地域との連携協定締結

光華女子学園では、地域との連携活動を円滑に継続すると同時に、地域貢献と実学的教育をより発展させていくため、行政他、各種団体と連携協定を結んでいます。ここでは、本学の立地する右京区における主な連携内容を紹介します。

### ■京都市右京区役所、右京消防署と「防災及び災害時支援に関する覚書」締結

平成26年3月8日、京都光華女子大学・同短期大学部は、台風18号（平成25年、大雨により右京区嵐山周辺で甚大な被害が発生）の経験をも踏まえ、地域防災力の向上と災害時の迅速な支援体制の確立を図る目的で、地域ゆかりの大学・同短期大学部として京都市右京区役所、右京消防署と「防災及び災害時支援に関する覚書」を締結しました。

#### 主な締結内容

- ・地域の自主防災会等が行う平時の防災活動への参加
- ・京都学生消防サポーター及び消防団の活動に関する周知
- ・地域の自主防災会等との協力による防災意識の啓発イベントの実施
- ・在学する学生に対する災害ボランティア募集情報の周知
- ・臨時の災害対応設備等設置場所としてのキャンパスの提供

### ■右京区大学地域連携に関する協定

平成23年11月4日、京都光華女子大学は右京区役所と地域ゆかりの5大学（本学、京都外国語大学、京都嵯峨芸術大学、花園大学、京都学園大学）が地域連携に関する協定を締結しました。

#### 協定内容

大学と地域とが、相互の人的、知的資源の交流、活用を図り、それらを通して大学の教育活動の活性化、地域住民の安心安全、地域の活性化及び将来必要とされる人材育成に寄与することを目的とし、次のような項目で連携、協力します。

- ・まちづくりの推進に関すること
- ・教育、健康、スポーツ、地域伝統文化の継承と振興に関すること
- ・地域産業の振興に関すること
- ・人材の育成に関すること
- ・その他右京区役所と各大学とが協議して必要と認める事項

### ■葛野学区自主防災会との協定

平成22年11月7日、光華女子学園は、災害に強いまちづくり、葛野学区自主防災会と安心が共有できる地域づくりを推進するための連携・協力に関する協定を締結しました。

#### 協定内容

葛野自治区に地震、水害等の大規模災害が発生した場合に、本学園が迅速かつ円滑な救援活動を遂行するために必要な事項を定め、地域住民の安全に寄与することを目的とし、次のような項目で連携、協力いたします。

- ・避難場所、避難施設の提供
- ・負傷者等の救護に必要な医療用資材および人員の提供
- ・本学園の設備による必要な情報収集および提供 など



## 4.2 科目「産官学連携プロジェクト」

地域連携推進センター発足後、同センターが運営する正課科目として、「産官学連携プロジェクト」を開講しました。この科目は大学の基礎・教養科目に設定されているため、すべての大学生が受講することができます。最大の特徴は、必ず学外団体と連携した体制で推進することにより、社会に存在するリアルな課題がテーマとなっていることです。これらのテーマをプロジェクトとして推進する過程で、学生は考える力やチームで働く力といった社会人としての基礎力を養成すると同時に、現場での実践力を高めます。これまでの連携先は、大手企業、地域の中小企業や商店街、NPO、福祉法人、学校など多岐に渡ります。

これまでに開講された「産官学連携プロジェクト」（平成26年度～平成28年度）

年度	テーマ	連携先	概要
平成26年度	京都”こうか”の旅プロジェクト	株式会社 グラフィック 有限会社 京都旅企画	女子学生の目線で魅力ある京都観光を企画開発し、商品化を目指す。
	光華子ども遊び隊 ～地域の障がいを持つ 子どもたちとの交流～	京都市立西総合支援学校 京都市立葛野小学校	障がいのある子どもたちとの交流を通じ、障がいに対する理解、制度、家族支援について考える。
	地域福祉に貢献する商品の プロデュース、販売実践	社会福祉施設 かしの木学園	知的障がいのある方々のつくるパンやシュトーレンの販売を通じ、地域福祉への理解、地域社会への貢献を目指す。
	チュロスの商品企画 ベジバーガーの商品企画と 販売実践	株式会社 山田製油	連携先の商品を使用した新商品の開発、学園祭での販売に向けたプロセスを学ぶ。
	商品企画デザイン・ 販売促進プロジェクト	株式会社 京都西川	寝具の商品企画、商品デザイン
平成27年度	光華子ども遊び隊 ～地域の障がいを持つ 子どもたちとの交流～	京都市立西総合支援学校 京都市立葛野小学校	障がいのある子どもたちとの交流を通じ、障がいに対する理解、制度、家族支援について考える。
	地域の社長に学ぶ ～経験からの 人生哲学をまとめよ～	京都中小企業家同友会	地域企業の社長へのインタビューを元に経験談を冊子にまとめる。
	商品の特徴分析と 販売実践・レシピ開発	株式会社 山田製油 マロニー株式会社	連携先の商品企画している「ベジバーガー」を、社員と協働で顧客ターゲット層の購買が見込める商品になるよう企画、製造し検証する。連携先の商品「マロニー」を使った新しいレシピを考案・試作する。
	商品の企画デザインから、 宣伝販売計画までのプロセス を学ぶ	株式会社 京都西川	株式会社 京都西川と連携し、寝具の企画開発、商品デザイン、宣伝広告・販売促進計画についての一連のプロセスを実践的に学ぶ。
平成28年度	地域と連携した環境活動	NPO法人 フロンティア協会 向日市観光協会	荒廃が進む日本の竹林の状況を座学とフィールドワークの両面から学び、女子大生目線で竹林問題を考察する。
	京都三条会商店街 寺子屋事業	京都三条会商店街	京都三条商店街を活動拠点とした地域交流活動の実践を通じ、世代間交流の体験、地域課題の解決を目指す。
平成28年度	商品の企画デザインから、 宣伝販売計画までのプロセス を学ぶ	株式会社 京都西川	株式会社 京都西川と連携し、寝具の企画開発、商品デザイン、宣伝広告・販売促進計画についての一連のプロセスを実践的に学ぶ。





支援学校の子どもたちとのクリスマスパーティ  
光華子ども遊び隊の活動



山田製油・マロニーと共同開発したベジバーガーを  
本学大学祭にて料理・販売する学生



寝具カバーのデザインについて京都西川の担当者の方と  
打ち合わせの様子



デザイン案に基づいて実際に寝具カバーを試作する学生



これまでの苦労話や成功話など、地域企業の社長から  
人生哲学を学ぶ学生



地域企業の社長へのインタビューを元に経験談を冊子化

### 4.3 右京区まちづくり支援制度

#### ① これまでの採択状況

右京区まちづくり支援制度とは、本学が立地する右京区役所が主催する助成事業のひとつです。まちづくりを推進するためには、地域の資源や価値を再認識し、まちの将来像を描き、まちづくり活動を展開していく活動が必要です。このようなまちづくりの担い手として大学は大きく期待されていると同時に、まちを構成する団体のひとつとしての責任もあります。本学はこの支援制度に平成22年度から申請し、これまで数多くの提案事業が採択されてきました。採択された提案事業を推進するプロセスはもちろん、申請書類を書き、公開プレゼンテーションで審査を受け、活動終了後に最終報告会で発表することは、授業では習得することができない実践的な学びがあります。





## これまでの地域連携活動

これまでの採択事業（平成25年度～平成28年度のみ掲載）

採択年度	団体名	事業名・事業概要
平成 25年度	光華こどもひろば	「光華こどもひろば」 地域の子育て支援を目的に、乳幼児と保護者が集う場として「光華こどもひろば」を開催する。教員や学生がスタッフとして参加し、子育てに役立つ技能や情報を伝えていく。また、学外で行われる地域のイベントにも参加し、地域住民との交流をはかる。
	京♻️しかミーツ	「女子大生が考える鹿肉普及活動」 右京区北部の鹿被害対策の一つとして、駆除された鹿の有効活用を目的とし、鹿肉普及活動を行う。地域のイベントでの鹿肉料理の販売や、環境学習と鹿肉料理講習会を併せた「エコしかクッキング」の開催により、鹿被害の実態と鹿肉の普及活動に取り組む。
	ゆるゆる～	「知る！伝える！喜びを分かち合おう！」 児童館に集まる小学生を対象に、季節ごとの遊びを通じた高齢者との交流により、昔の右京の生活を冊子にまとめ、後世に伝える。
	右京ツウ	「右京ツウ」 右京区で展開されている様々な市民活動、個性的な景観、地域産業、文化、暮らしを取材し、「右京コミニ TV」を活用して、情報発信を行うことで、認知度を高める。
	光華子ども遊び隊	「右京区に在住する障がい児の放課後支援」 孤立しがちな障がいをもつ児童・生徒への放課後支援活動を行うことで、対人関係の体験を増やす。障がいをもつ児童・生徒に対する区民の理解を増やして、ノーマライゼーションの意識を高める。
	京炎そでふれ！華羅紅	「女子大生と踊ってくれない？華羅紅」 踊りを通して地域を盛り上げることを目的とし、学校や福祉施設を訪れて踊りを披露したり、振り付けの指導を行いながら、高齢者や子どもたちとの交流をはかる。
平成 26年度	光華子育て支援かがやき隊	「光華子育て支援かがやき隊」 学生が授業で学んだ表現活動全般（音楽表現、造形表現、身体表現、言語表現等）を乳幼児、保護者に紹介する活動を通して子育て支援を行う。
	Ugirl	「感じて！学んで！魅力まちびと！」 右京区のために活動している団体を紹介する冊子を作成し、学生や区民に周知をはかる。意見交換会や区民のニーズに添ったワークショップを企画し、開催する。
	右京ツウ	「右京ツウ」 右京区で展開されている様々な市民活動、個性的な景観、地域産業、文化、暮らしを取材し、「右京コミニ TV」を活用して、情報発信を行うことで、認知度を高める。
	グリーンキーパー	「お花でいっぱい西京極駅前ひろば」 平成25年4月より、行政や地域の方々と協力し、整備を進めている西京極駅前緑地帯広場（平成26年5月に完成）にできる花壇に、地域の方々と一緒に花を植え、交流を深める。
	京炎そでふれ！華羅紅	「女子大生と踊ってくれない？華羅紅」 踊りを通して地域を盛り上げることを目的とし、学校や福祉施設を訪れて踊りを披露し、振り付けの指導を行いながら、高齢者や子どもたちとの交流をはかる。



採択年度	団体名	事業名・事業概要
平成 27年度	光華子育て支援かがやき隊	「光華子育て支援かがやき隊」 地域の子育て支援を目的に、乳幼児と保護者が集う場として「光華こどもひろば」を開催する。学生が授業で学んだ保育表現活動を生かし、乳幼児向けの出し物や遊びを提供する。また、絵本をテーマとした公開講座を企画し、実践に役立てていく。
	京♻️しかミーツ	「鹿肉大作戦～地域とつながるおいしか活動～」 右京区北部の鹿被害対策の一つとして、駆除された鹿の有効活用を目的とし、鹿肉普及活動を行う。地域のイベントでの鹿肉料理の販売や、環境学習と鹿肉料理講習会を併せた「エコしかクッキング」の開催により、鹿被害の実態と鹿肉の普及活動に取り組む。
	京炎そでふれ！華羅紅	「京都光華女子大学の女子大生と踊ってくれない？華羅紅」 踊りを通して地域を盛り上げることを目的とし、学校や福祉施設を訪れて踊りを披露し、振り付けの指導を行いながら、高齢者や子どもたちとの交流をはかる。
	Ugirl	「創って！話して！繋がろう、右京区！」 地域の方々に参加していただけるワークショップを開催し、大学と地域の連携を深める。近隣のショッピングセンターや公民館にて、クリスマスリース作り、ポストカード作りを実施。
	ユニバーサルデザイン研究会	「右京区ユニバーサルデザインマップの作成」 右京区に住む人や観光で訪れる人、特に高齢者や障がいを持つ人にとって利用しやすいユニバーサルデザインマップを作り、多くの人にとって住みやすい「まちづくり」についての関心と理解を促す。初年度は西院地区と嵐山地区の現地調査を実施し、マップ作成のための基礎資料をまとめる。
	竹サークル	「かがや姫も心配！右京の竹林問題」 右京区の竹林問題の認知拡大に挑む。講義とフィールドワークにて竹林問題の実態を学び、ボランティアへの参加を通し竹の有効活用策を考える。学び得たことを右京区民ふれあいフェスティバルにて区民に拡大する。
平成 28年度	光華子育て支援かがやき隊	「かがやき隊子育て支援講座」 これまで行ってきた「光華こどもひろば」に加え、おもちゃ講座や絵本講座を開催し、子育てに役立つ情報を提供していく。
	京♻️しかミーツ	「～防ごう被害 作ろう笑顔～ おいしかクッキング」 右京区北部の鹿被害対策の一つとして、駆除された鹿の有効活用を目的とし、鹿肉普及活動を行う。地域のイベントでの鹿肉料理の販売や、環境学習と鹿肉料理講習会を併せた「エコしかクッキング」の開催により、鹿被害の実態と鹿肉の普及活動に取り組む。他グループとのコラボ活動を目指す。
	京炎そでふれ！華羅紅	「京都光華女子大学の女子大生と踊ってくれない？華羅紅」 踊りを通して地域を盛り上げることを目的とし、学校や福祉施設を訪れて踊りを披露し、振り付けの指導を行いながら、高齢者や子どもたちとの交流をはかる。
	京カフェ Gyo- 座	「京北健康増進プロジェクト～高齢化地域の食による活性化～」 高齢化が進む京北弓削地区の活性化を目指し、ブランド餃子を考案する。地域のイベントや学園祭での試食・宣伝を行い、完成後は地域住民による販売を支援する。





採択年度	団体名	事業名・事業概要
平成28年度	KOKA ☆オレンジ サポーターズ	「KOKA ☆オレンジプロジェクト」 (高齢者・障がいのある方に飲み込みやすい和菓子を届けよう！) 右京区における認知症のある方を含めた高齢者・障がい者を支援する取組について学ぶとともに、高齢者や障がいのある方が食べやすい和菓子を開発・提供する。
	竹サークル	「かぐや姫も心配！右京の竹林問題」 右京区の竹林問題の認知拡大に挑む。講義とフィールドワークにて竹林問題の実態を学び、ボランティアへの参加を通し竹の有効活用策を考える。学び得たことを右京区民ふれあいフェスティバルにて区民に拡大する。

② 採択団体「京炎そでふれ！<sup>からくれない</sup>華羅紅の活動

「京炎 そでふれ！」とは、第3回京都学生祭典で作られたオリジナル創作ダンスです。曲・振り・衣装すべてに京都らしさがつめこまれていて、手に持つものも鳴子ではなく、四つ竹という琉球舞踊の鳴り物を使用する点で、鳴子を使うよさこいとは異なります。現在、京炎 そでふれ！チームは京都の様々な大学に12チームあり、おどり手数はなんと1000人を超えています。そして、「華羅紅」は、本学の学生で構成された女子のみのチームで、現在は40人ほどで活動しています。パワフルさと輝く笑顔はどのチームにも負けていません！

華羅紅は、平成26年度から右京区まちづくり支援制度に申請し、3年連続で採択されています。出前教室として、学校や福祉施設を訪れて踊りを披露し、振り付けの指導を行いながら、高齢者や子どもたちとの交流をはかりました。

■ 出前教室について（平成28年度の取組）

6週間にわたり、川岡小学校体育館で週に一回1時間出前教室を行いました。川岡小学校の低学年から高学年まで幅広い年の20名程度の児童たちと一緒に「京炎そでふれ！中間バージョン」という踊りを練習しました。6回の練習を終え、平成28年7月23日に川岡小学校運動場で行われた「川岡まつり」に参加。川岡小学校の児童と一緒に私達も踊りを披露しました。



■ 出前教室を実施した華羅紅メンバーの感想

子どもたちの理解が予想以上に早く、やる気に溢れた子達も多く、計画よりもどんどん早く進むことができました。披露の機会は多くいただいていたのですが、1つのお祭りに向けて人に踊りを教えるというのは初めてのメンバーがほとんどでした。このような滅多にない貴重な経験を川岡小学校の子どもたちと過ごせてとても幸せでした。



川田小学校での合同発表会（手前前方の華羅紅メンバーに合わせてステージ上の小学生が踊る。）





## 4.4 学まちコラボ事業

### ① これまでの採択状況

学まちコラボ（大学地域連携創造・支援）事業は、魅力ある地域づくりや地域の課題解決に向けて、大学・学生が地域と協働で取り組む事業を募集し、優れた取り組みに対して支援する大学コンソーシアム京都主催の支援事業です。この事業により、実践的な教育・研究機会の提供および人材育成、地域にとっては大学の知や学生の活力による地域の課題解決や活性化が図られています。

審査は1次審査（書類審査）と2次審査（公開プレゼンテーション）からなり、2次審査を通過すると、採択決定となり京都市長から採択通知書が手渡されます。事業実施中はもちろん、これらの選考プロセスも学生にとっては大変よい経験となっています。

本学では、平成25年度から学生団体がエントリーしており、その中でも「光華三条ガールズ」は初エントリーから現在に至るまで4年連続の採択となっています。

これまでの採択事業（平成25年度～平成28年度）

採択年度	団体名	事業名	事業概要
平成25年度	グリーンキーパー	区民と女子学生がつくる西京極駅前広場	駅前広場整備事業や地域の環境イベントへの参加、地域の高校生への環境教育の実施
	光華三条ガールズ	京都三条会商店街寺子屋事業	京都三条会商店街との協力によるイベント企画・運営
平成26年度	京♻️しかミーツ	女子大生の考える鹿肉普及活動	鹿肉を使ったレシピを考案し、地域イベントでの販売や猟師講習会を開催
	光華三条ガールズ	京都三条会商店街寺子屋事業	京都三条会商店街との協力によるイベント企画・運営
平成27年度	光華三条ガールズ	京都三条会商店街寺子屋事業	京都三条会商店街との協力によるイベント企画・運営
平成28年度	光華三条ガールズ	京都三条会商店街寺子屋事業	京都三条会商店街との協力によるイベント企画・運営



公開プレゼンテーションの様子



認定式にて門川京都市長と記念撮影



### ② 採択団体「光華三条ガールズ」の活動

#### ■ 平成25年度の取組

キャリア形成学科の4年生が、商店街の理事から「寺子屋を使って、地域の子どもたちが楽しめる活動を企画してほしい」という依頼を受けて、活動を開始しました。

メンバーに3年生を誘って「同じ活動するなら高い目標を！」ということで、第三者評価を得られる「学まちコラボ」に申請し、採択を受けることができました。



#### ■ 平成26年度の取組

1年間の活動実績に一定の評価を得ることができ、活動メンバーを全学の学生対象に広げました。キャリア形成学科のほかに健康栄養学科の2年生を交えて活動を継続しました。

学まちコラボ事業に2年連続で採択されたことで、三条会商店街がある中京区の広報誌「マチビト来たる。」の取材を受け、広範囲の方に知っていただく活動に発展しました。

#### ■ 平成27年度の取組

3年目を迎え、メンバーから「商店街の各店舗の方々との連携も深めよう」との提案があり企画を実現しました。これがきっかけとなり初めてのお店にも訪問し地域交流が広がりました。

この頃からお父さんの参加も増え、メンバーにとっても新しい刺激となりました。しかし、次を担うメンバー確保に苦戦し、次期活動リーダーは1年生となり、就職活動を控えた先輩がどこまで支援できるかの不安が残りました。



#### ■ 平成28年度の取組

3年の実績経験の総括として、地域交流事業について学ぶ必要性も課題としてあがりました。そこで、産官学連携プロジェクト科目として、まちおこしの専門家の講義を学び、活動の質アップを計画しました。

授業では三条会商店街の理事長にも参加いただき、商店主の方々といっしょに活動する企画を進めました。メンバーの強い願いで「餅つき大会」が実現し、100名を超える地域の方との交流が実現しました。





## 4.5 公開講座

本学では、知的財産である本学教員の専門知識や研究成果を広く一般に公開し、地域の方々に生涯学習の場を提供することを目的として、公開講座（無料）と教養講座（有料）を提供しています。また、本学の公開講座の一部は右京まちづくり大学リレー講座として、右京区に立地する他大学との連続講座のひとつにもなっています。

これまで開催した公開講座（平成25年度～平成28年度のみ掲載）

実施年度	実施日	テーマ・講座・講師
平成25年度	平成26年3月8日	地域連携推進センター開設記念公開講座 『災害と向き合う - 京都の歴史に学ぶ防災・減災 -』 「千年の都と災害」 高橋昌明氏（神戸大学名誉教授、大河ドラマ「平清盛」監修者） 「災害に備えて～住民ができる自衛策～」 樋口多加志氏（京都市消防局 右京消防署 副所長） 「質疑応答」 コーディネーター 野田泰三（本学教授）
平成26年度	平成26年6月21日	夏期公開講座『こころの健康』 「ストレスと向き合う」 竹西正典（本学教授） 「職場と家庭のメンタルヘルス」 鳴岩伸生（本学准教授）
	平成26年7月5日	夏期公開講座『地域の環境問題～今、何が起きているのか？～』 「地球温暖化が引き起こす地域の環境問題」 高野拓樹（本学准教授） 「災害により発生した大量のごみのゆくえ」 田中清秀氏 （京都市環境政策局循環型社会推進部 西部まち美化事務所 所長）
	平成26年10月25日	秋期公開講座・医療福祉学科開設記念公開講座 『今、生を充実させること～医療と福祉の連携が織りなす本当の支援とは～』 「大往生したけりゃ医療とかかわるな『自然死』のすすめ」 中村仁一氏（老人ホーム「同和園」 附属診療所 所長） 「医療と福祉の連携による「今、生を充実させること」への支援」 渡辺俊之（本学教授）／松田芳恵（本学准教授）／田中希世子（本学准教授）
	平成27年2月28日	特別公開講座『ヒラリーの挑戦』 「2016年 誕生するか？アメリカ初の女性大統領」 脇田哲志（本学教授）
平成27年度	平成27年6月27日	夏期公開講座『こどもが育ち、人が生きる社会を目指して』 「新しい教育の制度 小中一貫教育」 西孝一郎（本学准教授） 「尊厳ある生を考える」 沖野良枝（本学准教授）
	平成27年7月11日	夏期公開講座『中高年期の食と運動による生活習慣の改善と健康増進』 「運動による健康寿命の延伸」 寄本明氏（京都女子大学教授） 「食生活改善による健康寿命の延伸」 岡本秀己（本学教授）
	平成27年10月31日	秋期公開講座 「認知症ケアにおける補完療法」 中平みわ（本学准教授） 「唱歌・童謡・わらべうた～こども達と楽しむ歌～」 和田幸子（本学准教授）
	平成27年11月14日	特別公開講座『育つ心・育てる心』 「のびやかな心を育てる…幼児～小中学生へ」 徳田仁子（本学教授） 「思春期・青年期の心…出会いのコミュニケーションをとおして」 藪添隆一（本学教授）



## これまでの地域連携活動

実施年度	実施日	テーマ・講題・講師
平成28年度	平成28年6月25日	夏期公開講座『安心して暮らすための「福祉の仕組み」』 「安心して過ごせる長寿社会 - 介護保険のしくみ」 齊藤浩之氏（京都市保健福祉局長寿社会部介護保険課担当課長） 「今、大切なのは『つながること』」 佐々木勝一（本学教授）・南多恵子（本学講師）・岡野弘美（本学講師）
	平成28年7月9日	夏期公開講座『日本のデザインは、関西人のDNAがつくった！』 「デザインに見る、京都・大阪・東京 三都ものがたり」 井川啓（本学教授）
	平成28年10月29日	秋期公開講座『地球環境問題』 「地球環境クライシス～未来のエネルギーを考える～」 高野拓樹（本学准教授） 「異常気象と私たちの生活～お天気お姉さんの天気予報」 西池沙織氏（気象予報士）
	平成28年11月12日	特別公開講座 「熊本震災から学んだこと～人と人のつながり～」 磯田正二氏（京都大学 名誉教授）



公開講座の様子





## 4.6 地域イベントへの参画

### ① これまでの地域イベントへの参画状況

本学の学科、学生団体は、これまで大学近隣で開催されるたくさんのお祭りやイベントに、参加・協力してきました。

- おやこDEサンサ健康ひろば（右京区役所で実施されている3歳児健診の待ち時間を利用して、親子で健康づくりができる場を学生団体が提供）
- 京北ふるさとまつり（京災そでふれ！華羅紅（学生団体）がステージで踊りを披露）
- 三尾茶旅（右京区京北高雄地域活性化を目的として、本学、京都学園大学、京都嵯峨芸術大学の茶道部による茶会を開催）など、内容は多岐に渡ります。



おやこDEサンサ健康ひろばの様子

### ② 右京区民ふれあいフェスティバルへの参画

本学が立地する京都市右京区では、毎年、「右京区民ふれあいフェスティバル」が開催されています。このイベントは、右京区在住の区民の方々の親睦を深めることを目的とし、15,000名以上の来場者がある大きなイベントです。右京区にある企業、自治会、NPO法人、学校関係などが出店しており、本学も多くの学生団体や学科が出店しています。

こども教育学部こども教育学科の教員と学生で構成された光華子育て支援かがやき隊は、木の実を使ったおもちゃやアクセサリ作りブースを出し、毎年多くの親子連れでにぎわっています。グリーンキーパー、竹サークル（学生団体）は地域の環境問題をテーマに、日頃の取組を紹介しながら、小さな子ども向けのゲーム形式で環境問題の啓発活動を行っています。また、健康栄養学科健康スポーツ栄養専攻3年生がロコモティブシンドロームの数値を測る「ロコモ度テスト」をボランティアとして実施しています。ここでは、参加者のロコモ度測定を行い、区民の皆さんにロコモについて認知してもらい、いつまでも健康長寿でいられるような啓発活動を行っています。そして、京しがミーツ（学生団体）は、近年のシカ頭数の増加に伴う被害に注目し、少しでもシカ被害を削減するために、捕獲したシカをおいしく食べる鹿肉料理を研究しています。京しがミーツは、日頃の研究成果発表の場として、鹿肉料理のブースを出店しています。



毎年たくさんの人でにぎわう右京区民ふれあいフェスティバル



## これまでの地域連携活動

これまでの右京区民ふれあいフェスティバルへの出店状況（平成25年度～平成28年度のみ掲載）

実施日	内容	参加団体数
平成 25 年 10 月 26 日	光華こどもひろば（こども保育学科）、グリーンキーパー（学生団体）、京しかミーツ（学生団体）がブース出店	3
平成 26 年 10 月 25 日	光華子育て支援かがやき隊（こども保育学科）、キャリア形成学科（2 ブース）、グリーンキーパー（学生団体）、京しかミーツがブース出店	5
平成 27 年 10 月 24 日	光華子育て支援かがやき隊（こども教育学科）、竹サークル（学生団体）京しかミーツ（学生団体）がブース出店 健康栄養学科が健康長寿コーナー（ロコモ度テスト測定コーナー）を出店 京炎！そでふれ華羅紅（学生団体）がステージ出演	5
平成 28 年 11 月 12 日	光華子育て支援かがやき隊（こども教育学科）、竹サークル（学生団体）、京しかミーツ（学生団体）、京カフェ Gyo- 座（学生団体）がブース出店。 健康栄養学科が健康長寿コーナー（ロコモ度テスト測定コーナー）を出店	5



子どもたちにどんぐりや木の実を使った作品制作を指導する  
光華子育て支援かがやき隊（こども教育学科）



ゲームを通じて環境問題をやさしく子どもたちに教える  
グリーンキーパー（学生団体）



学生手作りのアクセサリをふれあいフェスティバル来場者に  
販売する学生（キャリア形成学科）



区民の皆さんの健康長寿を願ってロコモ度のテストの  
準備をする学生（健康栄養学科）





## 4.7 災害ボランティアと右京区総合防災訓練

近年の異常気象により、本学が立地する京都市右京区をはじめ、その近隣地域においても豪雨災害が多発しています。本学では、地域でこのような災害が発生した場合、教職員や学生を派遣し、一日でも早く被災地の方の生活が元に戻るよう、災害ボランティア活動を行っています。

これまでの災害ボランティア活動実績（平成25年度～平成28年度のみ掲載）

実施日	内容
平成 25 年 9 月	台風 18 号で被害をうけた嵐山地域にて、本学からのボランティア約 20 名が清掃活動や土砂撤去作業を実施。
平成 26 年 8 月 20 日 平成 26 年 8 月 21 日 平成 26 年 8 月 27 日	豪雨被害を受けた京北地域において、本学からのボランティアが高齢者世帯などの家屋被害の復旧作業、被災家屋及び周辺の泥・土砂出し、清掃、畳上げ、消毒作業等を実施。
平成 28 年 9 月 16 日	嵐山地域における水災害対応訓練に参加。
平成 28 年 12 月 4 日	右京区総合防災訓練に看護学科、医療福祉学科の学生が参加。

### ■平成26年度：豪雨災害の大雨被害による復旧ボランティアに参加

8月16日に京都府を襲った大雨によって大きな被害を受けた京都市右京区京北町や福知山市において、20日・21日・27日の3日間、本学の教職員が災害ボランティアとして活動しました。記録的な大雨により土砂災害をや浸水被害を受けた民家や地区の集会所にてスコップや放水ホース、デッキブラシなどで、屋内に流れ込んだ泥の掻き出しや清掃などの復旧作業を行いました。



### ■平成28年：右京区総合防災訓に参加

12月4日に京都市立西京極中学校にて、右京区総合防災訓練が行われ、看護学科と医療福祉学科から計6名が参加しました。訓練では椋原～水尾断層を震源とする地下約10kmでマグニチュード7の直下型地震が発生し、右京区内は震度6強で被害が多数発生しているとの想定のもと、区役所や消防署をはじめ、地元自主防災会や社会福祉協議会、土木事務所や水道局などの関連機関が協力し、浸水対応訓練、倒壊家屋等からの救出、応急消火訓練等が実施されました。本学看護学科の学生は、応急救護訓練においてけが人の応急処置に従事し、医療福祉学科の学生は災害ボランティアセンター開設後のボランティア要請に対応しました。



## 4.8 短期大学部学生リーダー組織「D\*Light」の取組

### ① 「京の水カフェin Zoo」の活動

京都市上下水道局、京都市動物園とライフデザイン学科の学生リーダー組織「D\*Light」とのコラボレーション企画として平成28年度に開催されたのが「京の水カフェin Zoo」です。京の水カフェとは、京都市上下水道局が平成25年度から毎年行っているイベントで、京都市の水道水をPRするために開催しています。平成28年度はタイトルどおり、京都市動物園での開催が決定していました。



「京の水カフェ in Zoo」開催当日の様子

「D\*Light」は京都市動物園の推薦を受け、京都市上下水道局からが委託される形でこのプロジェクトがスタートしましたが、まず驚いたのが、京都市の水道水はペットボトル飲料水に比べ、低価格

で安心・安全、しかも美味しいと評価されていて、さらに環境に優しい飲み物であるということが京都市民に浸透していないということです。

このイベントの主旨に沿って成功させるためにまずメニュー開発から始めました。心掛けたのは、動物園に来園した子どもたちが喜んでくれるメニューです。そして誕生したのがペンギンかき氷とレインボーかき氷です。その他のメニューも京都の企業にこだわり、京都市内に本社のある企業から協賛をいただき、12種類のメニューを準備しました。

さらに、動物園内外でのチラシの配布、TwitterやYoutubeでのPR動画の公開、イベント用にお揃いのTシャツを作成し、バンダナ、エプロンも揃えて本番に臨みました。

平成28年9月17日にオープンした水カフェは当初から多くのお客さんに来ていただき、特に子どもたちをターゲットに開発した「ペンギンかき氷」「レインボーかき氷」は予想どおり大人気となり売り切れとなる日もありました。こうして、休園日を除く8日間連続の開催での来場者は6,000人を越え（他大学が担当した前年の約3倍）、なんとか成功させることができました。



京都市から「未来の京都まちづくり推進」を受賞

この活動が認められ、10月には京都市から「未来の京都まちづくり推進」の表彰を受けました。また、12月に開催された社会人基礎力育成グランプリ近畿地区予選大会で水カフェの活動を発表したところ、見事、準優秀賞を獲得することもできました。短期大学部「D\*Light」は平成29年度も京都市上下水道局と協働で「京の水カフェ」を開催するべく準備を進めています。





② 高知県嶺北地域の活性化

高知県の山間部にある大豊町、本山町、土佐町、大川村の4町村を嶺北地域といい、この地域の活性化への協力をライフデザイン学科では継続して行っています。きっかけは平成24年度後期のプレゼン大会に高知県から「嶺北地域の活性化」をテーマとして提供いただいたことです。プレゼン大会の取材のために訪れた嶺北地域で住民の方々の優しさに触れて感動したことから、プレゼン大会以後も継続してお手伝いしていきたいという機運が学生の中から高まってきました。



短期大学部と嶺北地域観光・交流推進協議会とで活性化に関する協定書を締結

平成25年度になると学生たちが自ら活動を始め、短期大学部と嶺北地域観光・交流推進協議会とで活性化に関する協定書を締結しました。さらに、プレゼン大会で学生が提案した「嶺北地域でホームステイし、それを単位化する」という学生提案型授業の開発に取り組み、夏季休暇中に実際に模擬ホームステイを行い、翌年の授業化に備えました。また、秋には地元のお祭り「豊稷祭」に参加し、嶺北の特産品を使ったメニューを販売しました。そして、これらの活動をまとめて臨んだ「社会人基礎力育成グランプリ」では、見事、全国大会で準大賞を受賞することができました。



高知県嶺北地域でホームステイ（ブドウ畑で収穫のお手伝い）

平成26年度になると活動は一気に活性化し、前年から取り組んでいた嶺北地域の一般家庭にホームステイする授業「地域連携実践演習Ⅰ」を開講。また平行して嶺北の特産品を使った学食メニューの開発に取り組み、実際に学食メニューとして販売することに成功しました。さらに、このメニュー開発の際に審査員を務めていただいたイセタン フードホールのバイヤーに声を掛けていただき、嶺北産の生姜を使ったメニュー開発にひき続き挑み、平成27年度には大阪駅前のルクアイーレ地下・イセタン フードホール内にて4メニューを販売、1週間で540食を販売しました。



高知県嶺北地域のお祭り「豊稷祭」にて出店

平成28年度は、長年あためてきた企画、京都の小学生を嶺北に迎える「サマースクール」の開催こそありませんでしたが、地域連携実践演習Ⅰの開講、豊稷祭への参加を実現させることができました。

ライフデザイン学科では、新たな企画の提案も視野に入れながら嶺北地域活性化のお手伝いをこれからも続けていくつもりです。

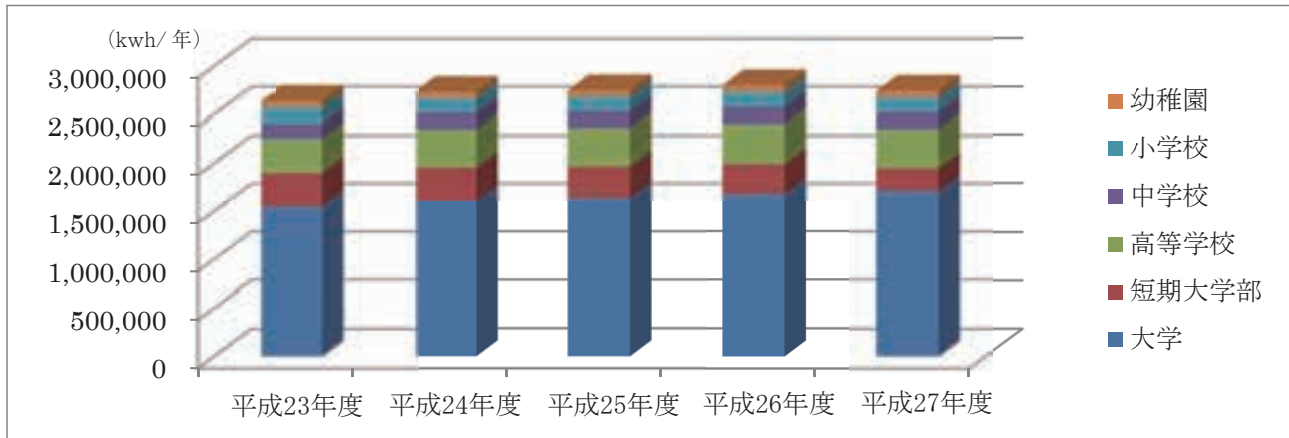
## 5. エコキャンパスの推進



## 5.1 学園における各種エネルギーの使用状況

### ① 電気エネルギー消費量

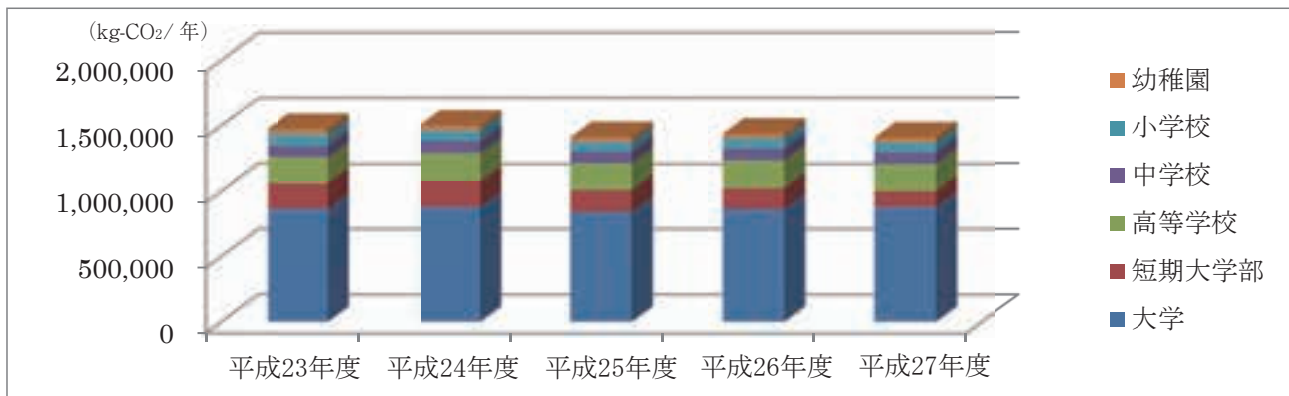
電気使用量については、過去5年間の総使用量で見れば、ほぼ横ばい状態となっています。大学においては平成21年に学園創立70周年を迎え、その記念として新たに「闘光館」を建設し、校舎数が増えましたが高効率型照明器具の導入とともに、学園として節電対策を掲げ、クールビズ・ウォームビズ等を実施し、全教職員が一丸となり取り組んでいます。



単位：kwh/年

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
大 学	1,551,991	1,603,814	1,638,618	1,680,665	1,713,830
短期大学部	346,392	351,950	327,233	309,882	234,576
高等学校	358,079	395,788	400,530	414,875	405,762
中学校	148,398	165,030	166,987	172,971	169,332
小学校	174,506	155,623	157,491	163,269	159,910
幼稚園	58,903	58,353	57,556	59,653	60,383
合 計	2,638,269	2,730,558	2,748,415	2,801,315	2,743,793

### 電気使用によるCO<sub>2</sub>排出量

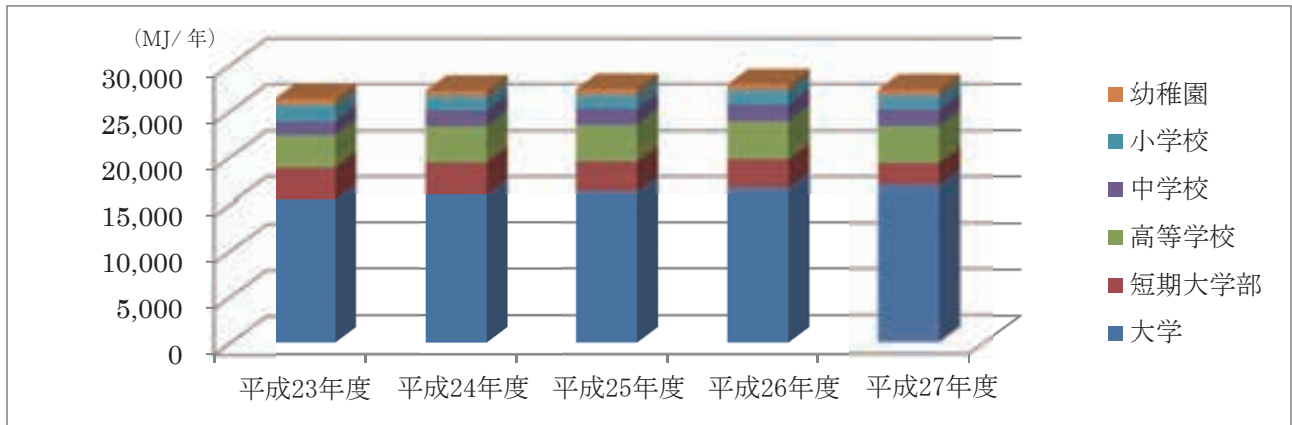


単位：kg-CO<sub>2</sub>/年

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
大 学	867,563	882,098	842,250	863,862	880,909
短期大学部	193,633	193,573	168,198	159,279	120,572
高等学校	200,166	217,683	205,872	213,246	208,562
中学校	82,954	90,767	85,831	88,907	87,037
小学校	97,549	85,593	80,950	83,920	82,194
幼稚園	32,927	32,094	29,584	30,662	31,037
合 計	1,474,792	1,501,808	1,412,685	1,439,876	1,410,310



電気消費量の熱量換算

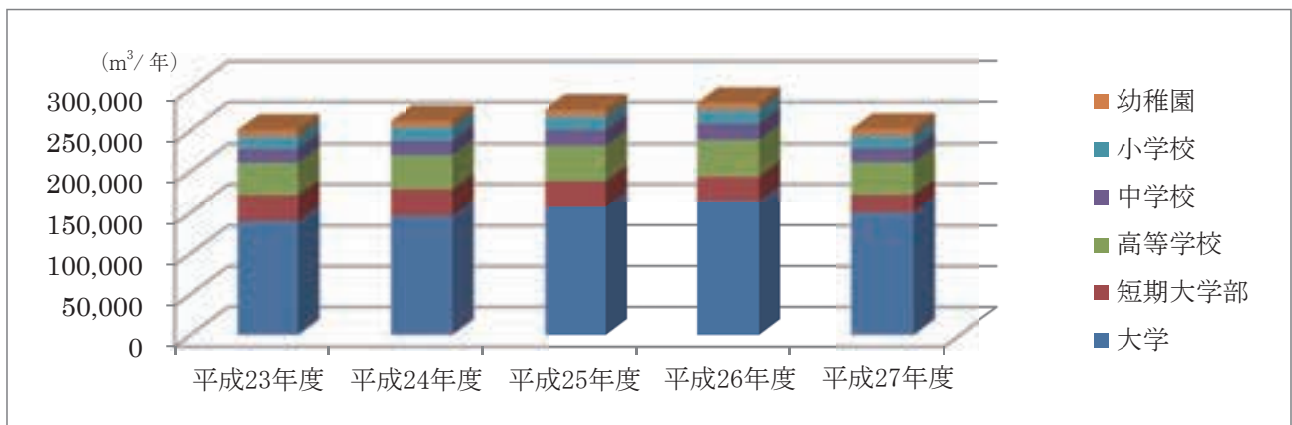


単位：MJ/年

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
大 学	15,473.350	15,990.026	16,337.168	16,756.381	17,087.039
短期大学部	3,453.528	3,508.942	3,262.542	3,089.551	2,338.774
高等学校	3,570.048	3,946.006	3,993.320	4,136.341	4,045.484
中学校	1,479.528	1,645.349	1,664.875	1,724.536	1,688.255
小学校	1,739.825	1,551.561	1,570.199	1,627.807	1,594.317
幼稚園	587.263	581.779	573.838	594.746	602.024
合 計	26,303.542	27,223.663	27,401.944	27,929.362	27,355.862

② ガスエネルギー消費量

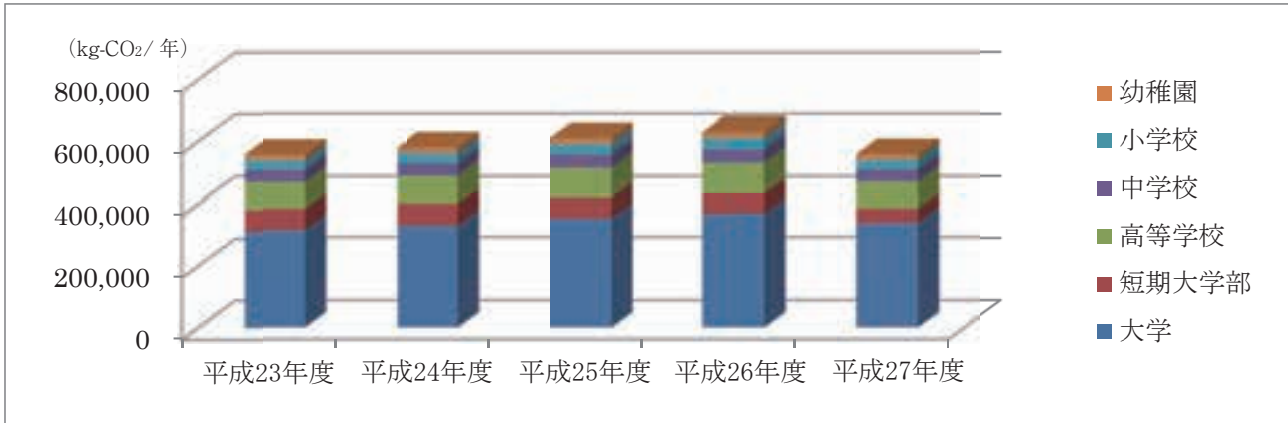
ガス消費量については、平成23年度から平成26年度にかけて増加しています。大きな要因としては、計画的に改修している空調機を電気式からガス式に変更したことや、大学においては平成21年に70周年棟「聞光館」を建設し、館内の空調機をガス式空調機にしたこと等が挙げられます。なお、採用したガス式空調機については、稼働時に自家発電する機能を兼ね備えており、館内の一部の電力を賄っています。平成26年度から平成27年度にかけては学内での省エネ活動によりガス消費量が減少いたしました。



単位：m³/年

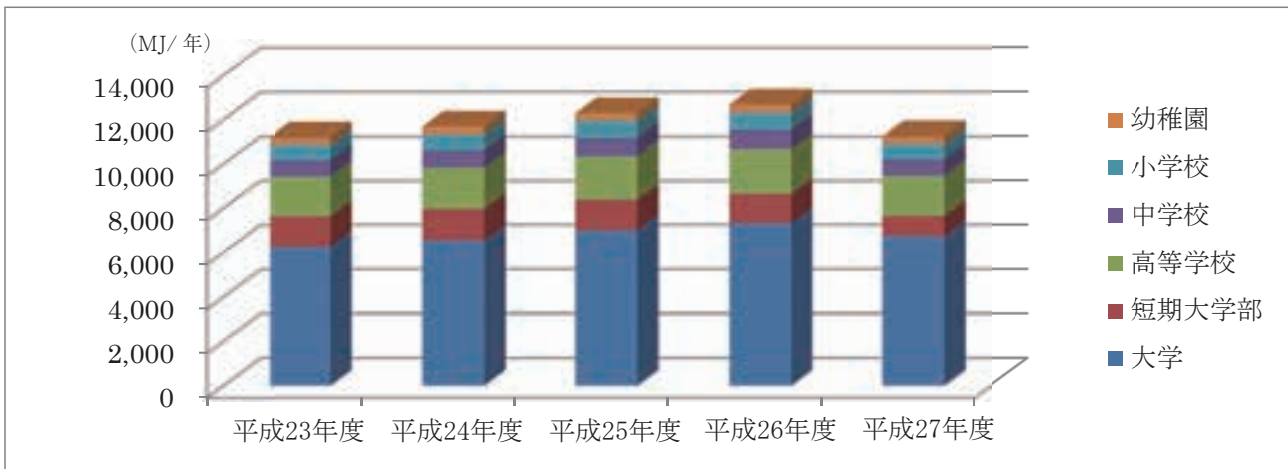
	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
大 学	139,593	146,121	156,511	163,315	150,485
短期大学部	31,155	32,066	31,255	30,112	20,597
高等学校	40,059	41,783	43,930	45,287	40,379
中学校	16,705	17,422	18,315	18,881	16,851
小学校	15,771	16,429	17,273	17,822	15,913
幼稚園	6,498	6,750	7,083	7,328	6,579
合 計	249,781	260,571	274,367	282,745	250,804

ガス消費によるCO<sub>2</sub>排出量



	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
大 学	311,854	326,438	349,650	364,352	336,188
短期大学部	69,601	71,636	69,824	67,271	46,014
高等 学 校	89,493	93,344	98,141	101,172	90,208
中 学 校	37,319	38,921	40,916	42,181	37,646
小 学 校	35,233	36,703	38,588	39,815	35,550
幼 稚 園	14,517	15,080	15,824	16,371	14,698
合 計	558,017	582,123	612,943	631,161	562,318

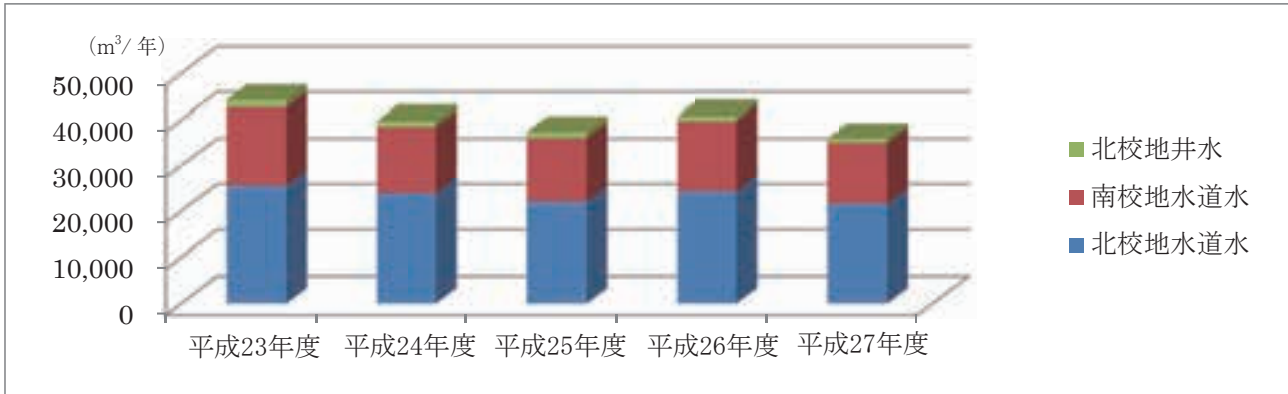
ガス消費量の熱量換算



	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
大 学	6,253.766	6,546.221	7,011.693	7,316.512	6,741.728
短期大学部	1,395.744	1,436.557	1,400.224	1,349.018	922.746
高等 学 校	1,794.643	1,871.878	1,968.064	2,028.857	1,808.979
中 学 校	748.384	780.506	820.512	845.869	754.925
小 学 校	706.541	736.019	773.830	798.425	712.902
幼 稚 園	291.110	302.400	317.318	328.294	294.739
合 計	11,190.188	11,673.581	12,291.642	12,666.976	13,251.018

③ 水道使用量

学園の水道使用量については、平成23年度から平成25年度にかけて徐々に減少しています。大きな要因として、計画的にトイレ改修等を行う際、節水式のものを採用していることや南校地においては、水道蛇口に節水金具を設置したことにより数値として結果が表れました。平成26年度には少し増加しましたが、平成27年度には学内での節水に対する啓発活動により減少しました。

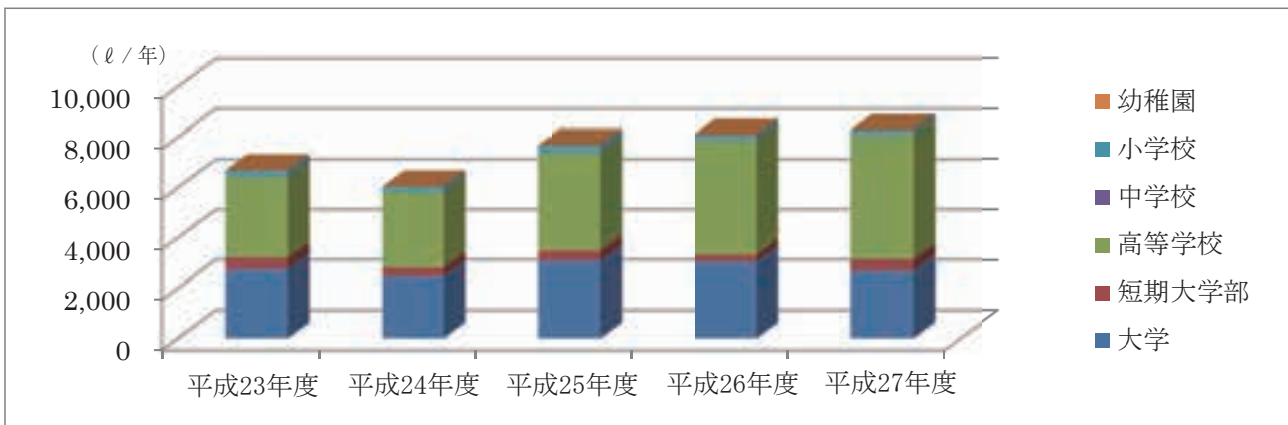


単位: m³/年

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
北校地水道水	25,539	23,894	22,081	24,328	21,619
南校地水道水	17,046	14,678	14,011	15,450	13,436
北校地井水	1,599	1,213	1,328	1,060	865
合計	44,184	39,785	37,420	42,852	37,935

④ ガソリン消費量

ガソリン消費量については、平成19年以降学園の広報活動の強化を図ったことなどを背景に大学に公用車（ガソリン車）を3台導入したことで大幅に増加しましたが、平成24年度においては、アイドリングストップの励行や公用車使用の抑制等の啓発を行った結果、消費量が減少しました。しかし、平成25年度以降においては、更なる学園の広報活動の強化を図ったことなどを背景に公用車使用によるガソリン消費量が増加しております。

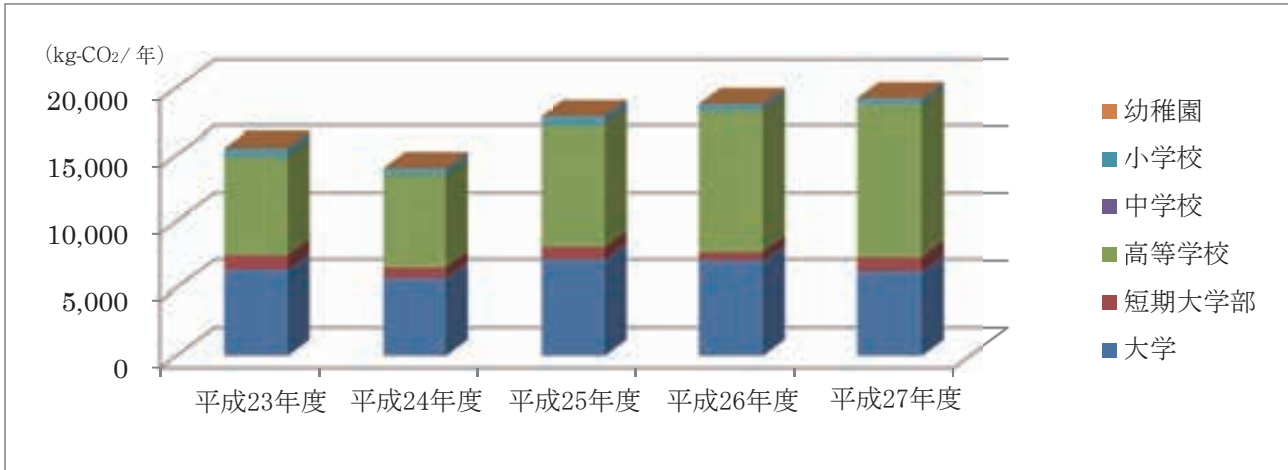


単位: ℓ/年

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
大 学	2,747	2,467	3,086	3,045	2,690
短期大学部	459	338	394	269	453
高等学校	3,204	3,010	3,901	4,545	4,912
中学校	0	0	0	0	0
小学校	272	222	293	246	209
幼稚園	0	0	0	0	0
合計	6,682	6,037	7,675	8,075	8,265

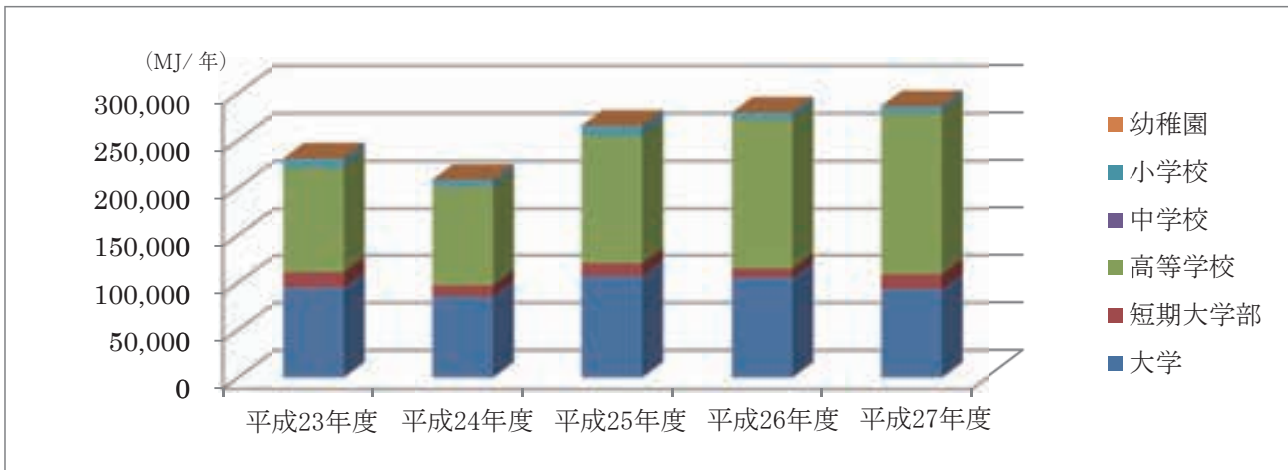


ガソリン消費によるCO<sub>2</sub>排出量



	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
大 学	6,378	5,728	7,165	7,070	6,246
短 期 大 学 部	1,066	785	915	626	1,051
高 等 学 校	7,439	6,988	9,058	10,551	11,405
中 学 校	0	0	0	0	0
小 学 校	631	515	680	501	486
幼 稚 園	0	0	0	0	0
合 計	15,513	14,016	17,820	18,747	21,203

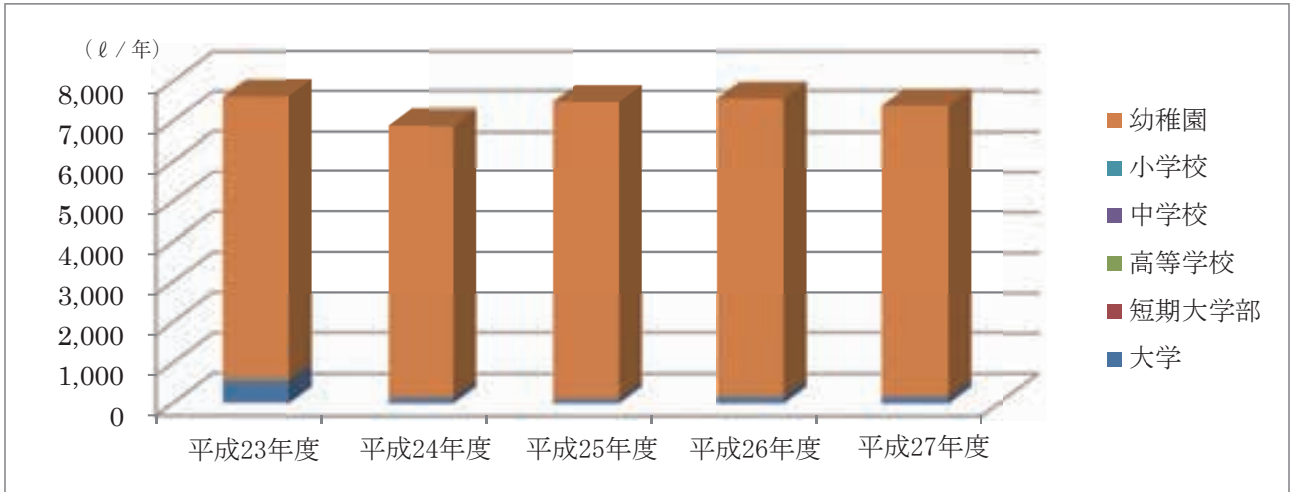
ガソリン消費量の熱量換算



	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
大 学	95,046	85,358	106,776	105,366	93,091
短 期 大 学 部	15,881	11,694	13,632	9,317	15,660
高 等 学 校	110,858	104,146	134,975	157,251	169,964
中 学 校	0	0	0	0	0
小 学 校	9,411	7,681	10,138	7,462	7,244
幼 稚 園	0	0	0	0	0
合 計	231,197	208,880	265,555	279,398	287,974

⑤ 軽油消費量

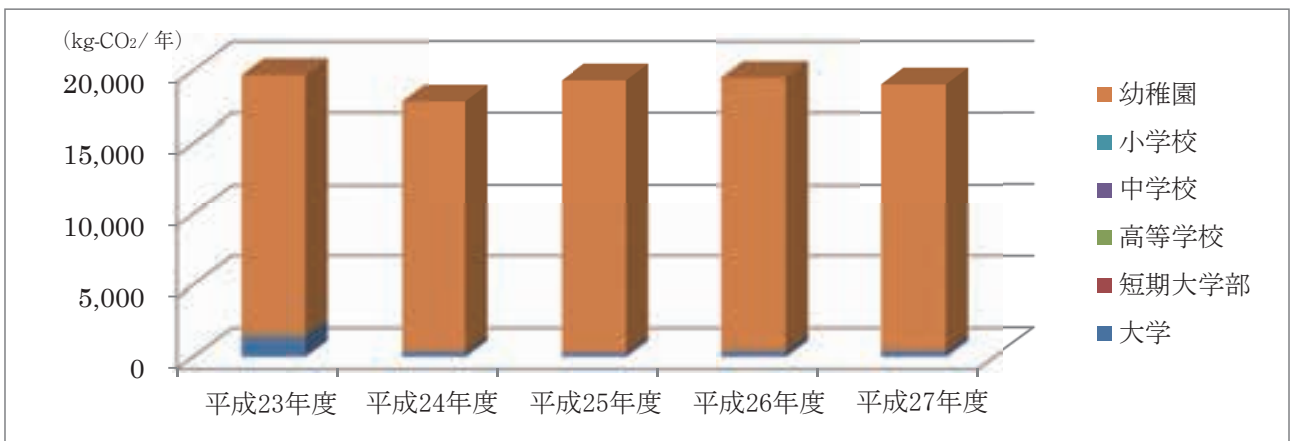
軽油消費量については、9割以上が幼稚園バス（マイクロバス）で消費しています。ガソリン使用量同様にアイドリングストップの励行を行うとともに学園で所有するマイクロバス4台（幼稚園2台、大学・短大2台）の使用方法を見直す中で、使用の抑制等の啓発を行っています。平成25年度、平成26年度にかけては幼稚園送迎バスのエリア拡大により使用量が増加していましたが、この啓発活動により平成27年度には減少いたしました。



単位：ℓ/年

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
大 学	508	127	108	139	156
短期大学部	36	12	6	15	5
高等 学 校	53	18	10	25	12
中 学 校	21	7	4	10	5
小 学 校	25	8	4	11	6
幼 稚 園	6,968	6,721	7,329	7,344	7,175
合 計	7,611	6,893	7,461	7,544	7,359

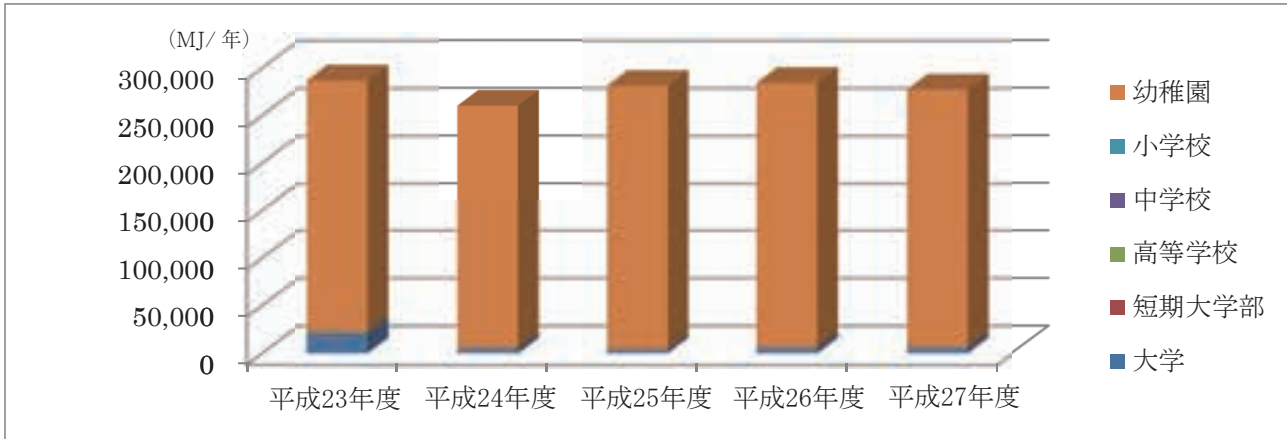
軽油消費によるCO<sub>2</sub>排出量



単位：kg-CO<sub>2</sub>/年

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
大 学	1,313	328	279	360	404
短期大学部	93	31	16	37	13
高等 学 校	137	47	26	67	32
中 学 校	54	18	10	27	12
小 学 校	65	21	10	27	15
幼 稚 園	18,012	17,374	18,940	18,985	18,529
合 計	19,674	17,818	19,281	19,502	21,021

軽油消費量の熱量換算



単位：MJ/年

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
大 学	19,151.600	4,787.900	4,071.600	5,251.368	5,896.280
短 期 大 学 部	1,357.200	452.400	226.200	550.540	196.040
高 等 学 校	1,998.100	678.600	377.000	933.525	467.480
中 学 校	791.700	263.900	150.800	359.048	180.960
小 学 校	942.500	301.600	150.800	430.858	214.890
幼 稚 園	262,693.600	253,381.700	276,303.300	276,879.315	270,489.960
合 計	286,934.700	259,866.100	281,279.700	284,404.653	277,445.610

## 5.2 エコキャンパスの推進に向けた取組

### ① KOKAエコアワード

本学園では、経営方針に掲げられたエコスクールの実現を全学的に推進するため、平成21年の学園創立70周年記念時に行われた「KOKAエコアワード」の趣旨（下記参照）に基づいて、その取組を継承し、さらにその活動の普及と深耕を図ることを目的に毎年KOKAエコアワードを実施しています。

主な取組としては、各設置校園で実施されている環境教育をシンボリックに取り上げるとともに、全校園の園児から学生、平成28年度からは教職員までを対象として、エコ活動啓発する作品（作文部門・標語部門・ポスター部門・作品部門）を募集し、優秀作品に各賞を授与し、表彰を行っています。なお、平成26年度からは「エコアイデア部門」を創設し、エコ活動啓発により出されたアイデアに対する表彰し、そのアイデアを実際に学園内でのエコ活動として実施しています。

#### 【趣旨】

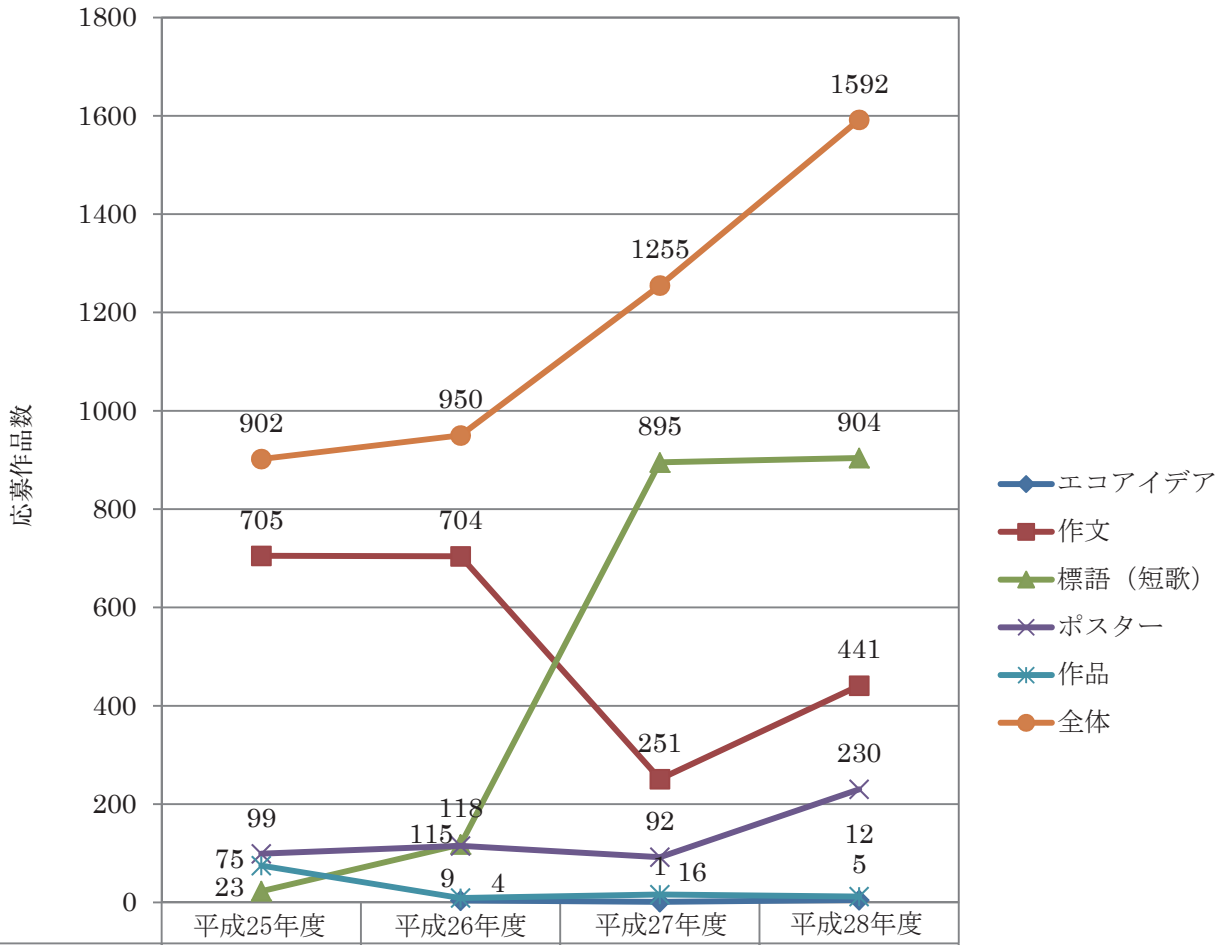
「エコ」という言葉は現代社会に浸透してきたものの、「エコ活動」はまだ家庭にも社会にも浸透している訳ではありません。次代を担う学生・生徒や児童・園児たちに、美しい地球、住みよい環境を継承するため、低炭素社会の実現は現代社会が取り組むべき喫緊の課題です。本学園ではそれぞれの校園において、講義、授業、課外活動やボランティア活動を通し、学齢にあった環境教育に力を注いでおり、保護者の皆さまはもとより、各方面からご理解と高い評価をいただいております。

そこでこの度、院生・学生・生徒・児童・園児の皆さんにエコ意識をさらに啓発し、私たち個々が今、何をなすべきかを考え、表現するとともに、身近なところから「エコ活動」に取り組む機会として、創立70周年を迎える光華女子学園に「KOKAエコアワード」を設立いたします。

ついでに、全校園の園児から学生までを対象にエコ啓発の作品を募集し、優秀作品に各賞を授与、70周年記念式典において表彰いたします。併せて、学生生徒の皆さんの実践されているエコ活動も表彰したいと考えております。当日は会場内ロビーに作品展として掲出、さらに70周年記念棟キャンパスモール（現、聞光館）にも展示を計画いたしております。（『学園創立70周年記念「KOKAエコアワード」啓発作品募集要項』より）



●KOKAエコアワードの応募作品数推移



エコアイデア		4	1	5
作文	705	704	251	441
標語 (短歌)	23	118	895	904
ポスター	99	115	92	230
作品	75	9	16	12
全体	902	950	1255	1592

●平成28年度金賞受賞作品



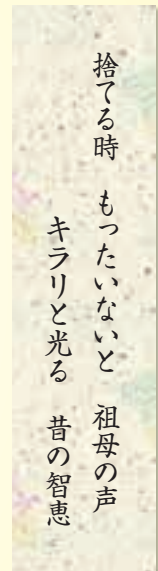
作文  
部門

受賞者  
テーマ：『エコ活動について』  
小学校 6年2組  
藤原 誠豊 さん



標語  
(短歌)  
部門

受賞者  
高等学校 1年6組  
大枝 眞華 さん



受賞者

テーマ：『I recycle because I care...』  
 中学校 1年1組 北川 アンナ璃咲 さん



受賞者

年長ぼぶら組  
 西村 柚乃 さん



②省エネルギーに向けた活動

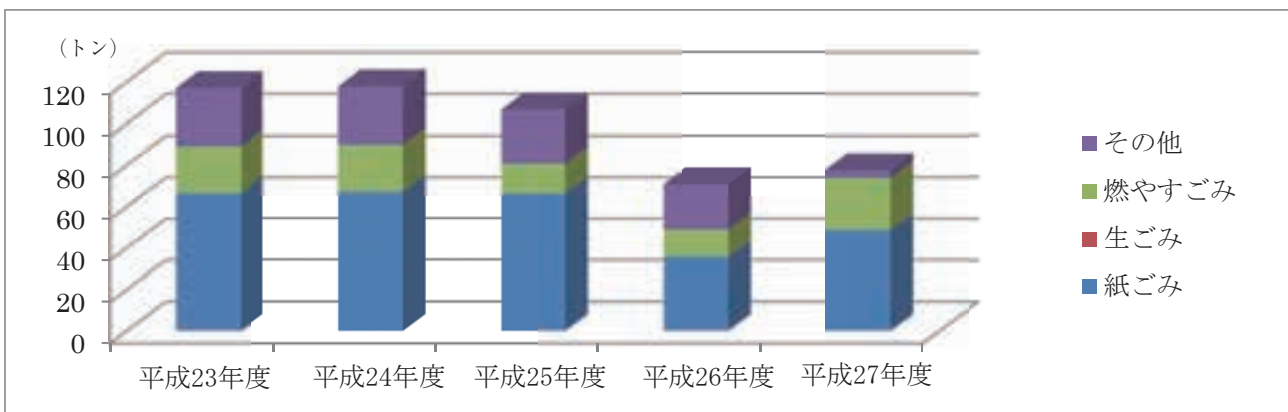
本学園では、エネルギー使用量削減に向け、ソフト面では、学園挙げて夏季のクールビズ活動、冬季のウォームビズ活動を実施し、空調機の温度設定（夏季28℃、冬季20℃設定）や照明の間引き、事務室内昼休みの消灯、職員の見回りによる空き教室の照明・空調機の消灯等を行っています。また、ハード面では、計画的に太陽光発電装置の導入や発電機能付き空調機を採用し、可能な限り地産地消を目指したハード面の整備を行っています。また、校舎等の改修に併せて高効率型の照明器具等を採用し、省エネルギー化を図っています。

③廃棄物削減に向けた活動

事業系廃棄物の発生量については、平成24年度以降減少傾向にあります。平成27年度は増加しておりますが、それに伴って大学側の各棟（廊下）に分別項目を一般ごみ、かん・びん・ペットボトル、プラスチックの3項目に加え、「古紙」の回収BOXを設置し、南校地においてもさらなる分別、再生利用の徹底を目指しております。

また、産業廃棄物の発生量についても、ごみの分別の徹底により空き瓶等の発生量が増加していますが、再生利用量からみてわかる通り、全てを再生利用しています。

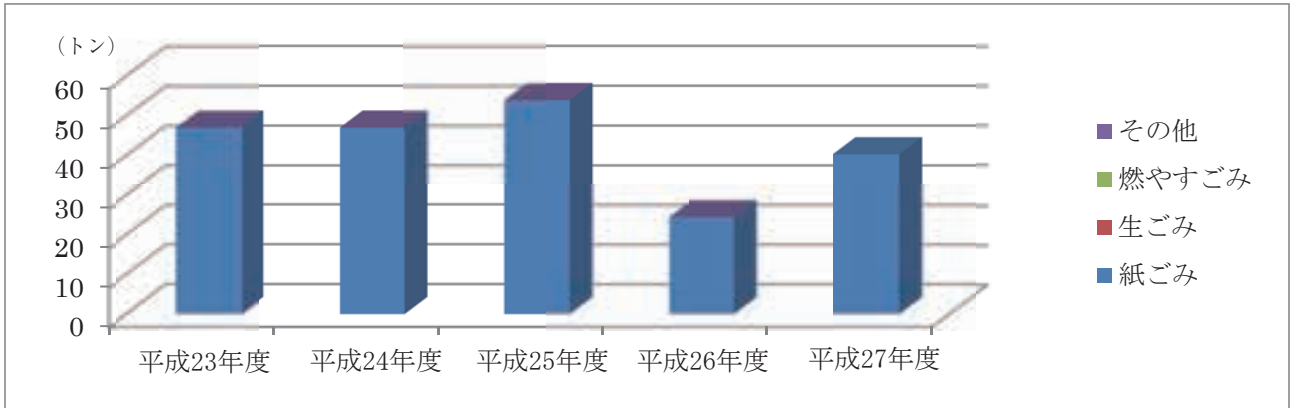
事業系廃棄物の発生量



単位：トン

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
紙ごみ	66.4	67.2	66.3	35.7	48.6
生ごみ	0	0	0	0	0
燃やすごみ	22.7	22.7	14.5	13.2	25.3
その他	27.9	27.9	25.8	21.9	3.7
合計	117.0	117.8	106.6	70.8	77.6

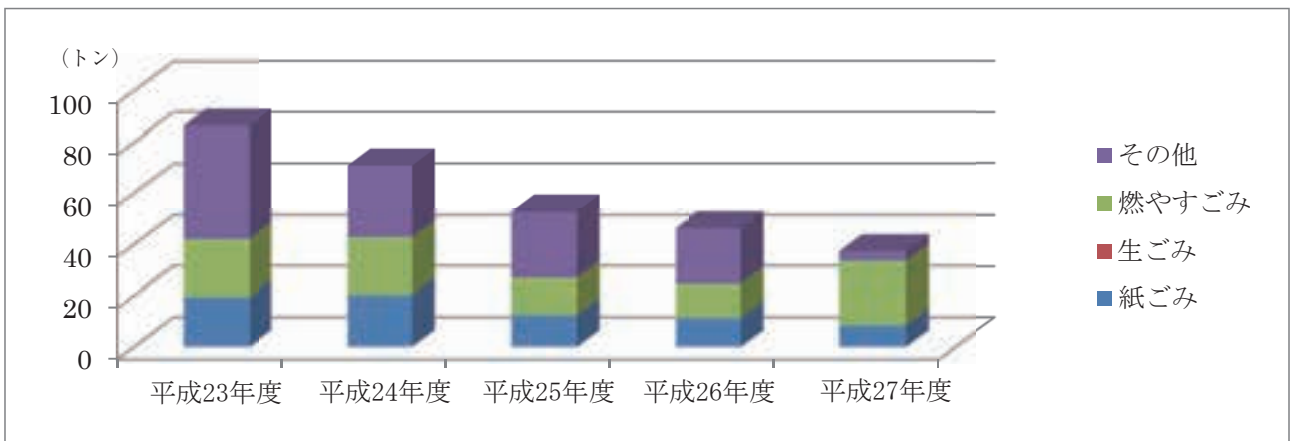
事業系廃棄物の再生利用量



単位：トン

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
紙ごみ	47	47	53.9	24.4	40.3
生ごみ	0	0	0	0	0
燃やすごみ	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
合計	47	47	53.9	24.4	40.3

事業系廃棄物の廃棄量

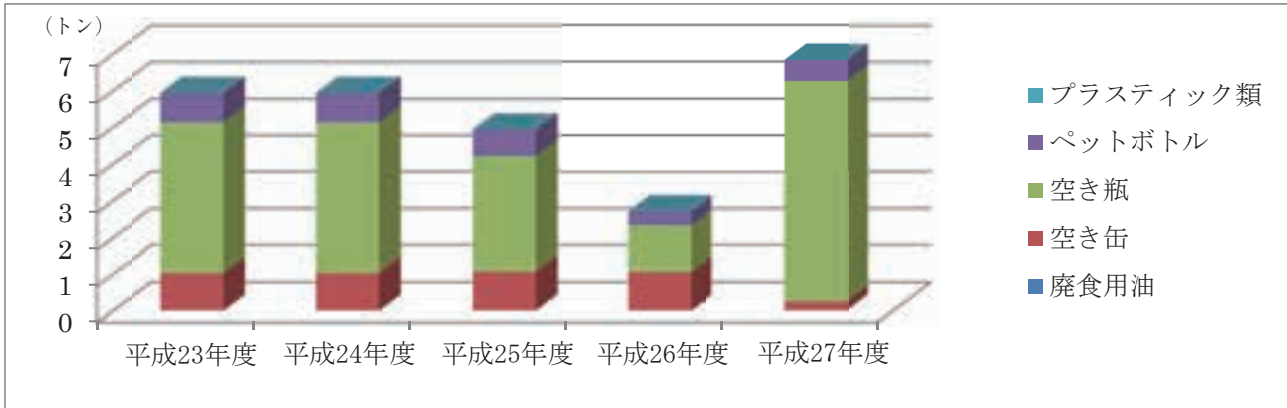


単位：トン

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
紙ごみ	19.4	20.2	12.4	11.3	8.3
生ごみ	0	0	0	0	0
燃やすごみ	22.7	22.7	14.5	13.2	25.3
その他	44.1	27.9	25.8	21.9	3.7
合計	86.2	70.8	52.7	46.4	37.3



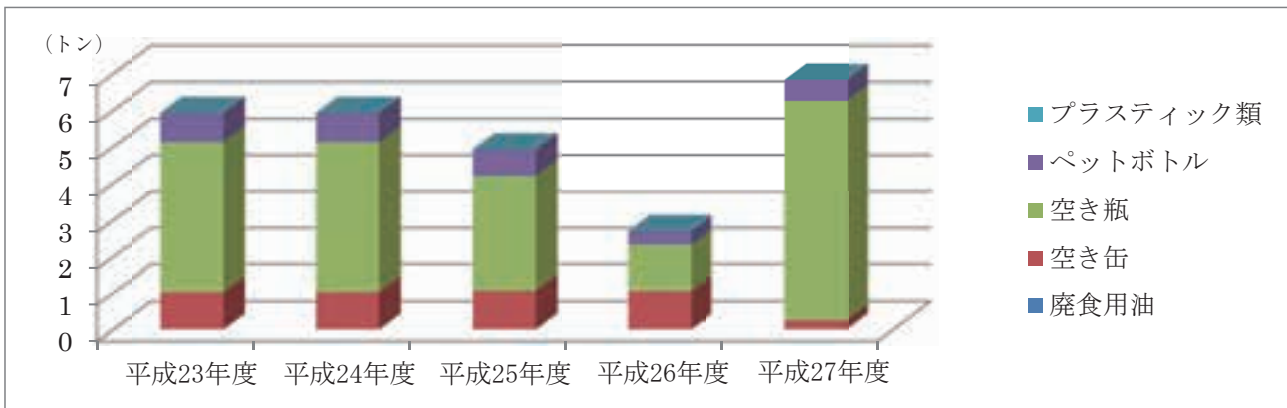
### 産業廃棄物の発生量



単位: トン

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
廃食用油	0	0	0.6	0	0
空き缶	1.02	1.02	1.06	1.05	0.25
空き瓶	4.11	4.11	3.14	1.26	5.99
ペットボトル	0.79	0.79	0.73	0.38	0.58
プラスチック類	0	0	0	0	0
合計	5.92	5.92	4.93	2.69	6.82

### 産業廃棄物の再生利用量



単位: トン

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
廃食用油	0	0	0	0	0
空き缶	1.02	1.02	1.06	1.05	0.25
空き瓶	4.11	4.11	3.14	1.26	5.99
ペットボトル	0.79	0.79	0.73	0.38	0.58
プラスチック類	0	0	0	0	0
合計	5.92	5.92	4.93	2.69	6.82

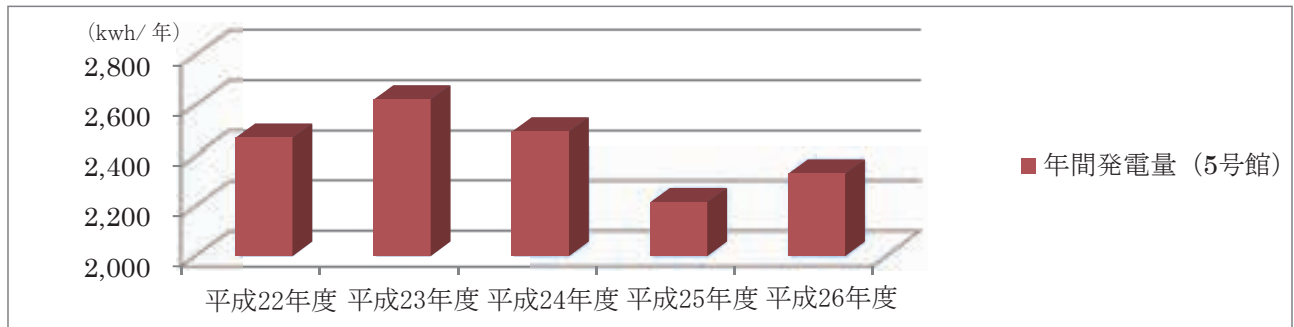
#### ④ 太陽光発電

学園では、京都府の策定した「京と地球の共生計画」をもとに、地球温暖化防止を目的として、平成16年に本学北校地の5号館（実験・実習施設棟）屋上に太陽光発電装置（施設内に観測表示装置含む）3kwhを導入し、館内の電力の一部に充当することにより、エネルギーの高度な高効率活用を実施しています。また、本学は女子大学として地球温暖化保全・新エネルギーを踏まえた環境教育の拡充を目指し、近隣・地域への地球温暖化への発信を目指すことを目的のひとつとしています。併せて、屋上緑化（300㎡）や高効率安定器（昼光・人感センサー・初期照度補正等）を導入し、館内の省エネを推進しています。なお、本事業の整備にあたっては、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構の補助金を活用して整備しました。

## エコキャンパスの推進

さらに、平成22年に学園創立70周年を迎え、その記念として聞光館（複合施設）を竣工しました。新棟建設にあたり、本学の経営方針にも掲げている「エコスクールの実現」を具現化すべく屋上階に太陽光発電装置を設置（施設内に観測表示装置含む）30kwhを整備し、施設内電力の一部に充当するなど環境負荷の低減や自然との共生を考慮した施設として整備しました。また、各設置校園の環境教育の実習・演習施設としても活用しています。なお、本事業の整備にあたっては、一般社団法人新エネルギー導入促進協議会の補助金を活用して整備しました。幼稚園においては、環境教育の推進を目的として、平成24年度に園舎屋上に太陽光発電装置（施設内に観測表示装置含む）4kwhを整備し、施設内電力の一部に充当しています。また、発電モニターを設置し、園児に対し環境・エネルギー教育を行っています。

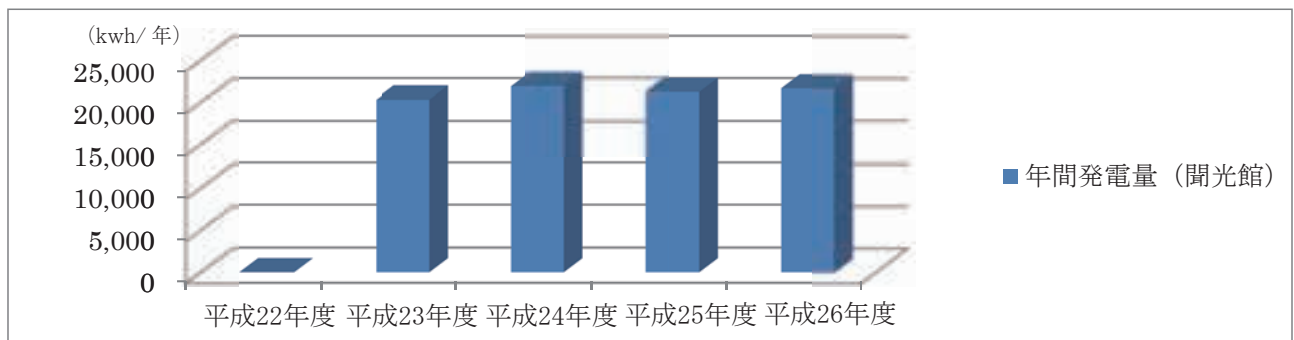
### 5号館の太陽光発電電量



単位：kwh/年

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
年間発電量	2,467.833	2,620.358	2,492.881	2,210.951	2,325.095

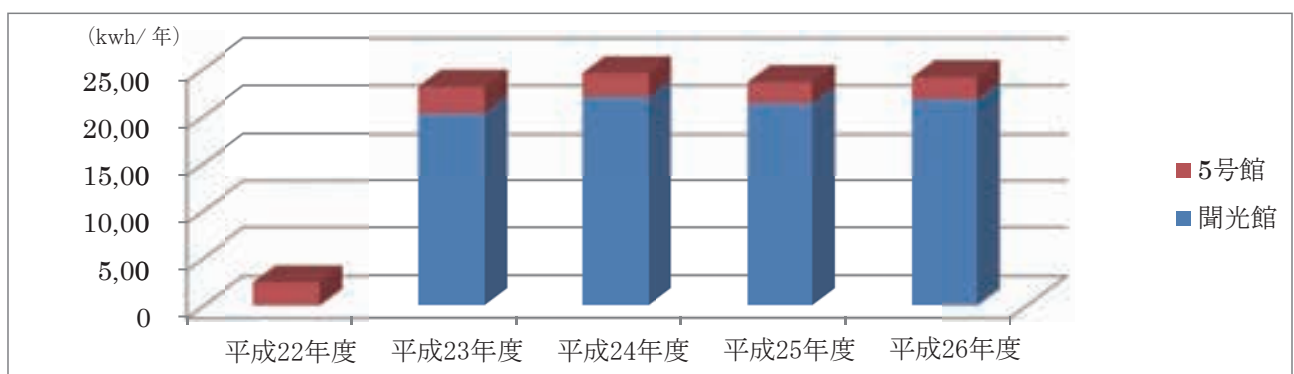
### 聞光館の太陽光発電電量（※平成23年度より計測開始）



単位：kwh/年

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
年間発電量	—	20,393.611	21,947.416	21,289.953	21,705.733

### 5号館+聞光館の太陽光発電



単位：kwh/年

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
年間発電量	2,467.833	23,013.969	24,440.297	23,500.904	24,030.828

## 6. 各校園の環境教育、 環境活動





## 6.1 光華幼稚園

### ① 野菜の栽培収穫・ピザ作り（食育）

毎年、幼稚園の畑では数種類の野菜を各季節に合わせて栽培・収穫しています。夏には、きゅうり・トマト（プチトマト）・ナス・スイカなど多くの野菜が幼稚園の畑に実りました。園児たちは、野菜の栽培を植えから経験することで、野菜の育っていく過程にも興味を持つことができています。園庭で遊んでいる時にも畑の様子を見に行き、「きゅうりの葉っぱが大きくなって！」「小さなトマトが出来てるよ」と嬉しそうに教えてくれます。今年度は野菜が豊作で、各学年で取れたたての野菜を頂くことが出来ました。また、年長児は収穫した野菜を使ってピザパーティーを行いました。自分たちで収穫した野菜を生地にトッピング。子ども達は、「トマトたっぷりにしよう」「ようちえんのピーマンは美味しいよ」とお話ししながら、ピザ作りを楽しんでいました。出来上がったピザは、幼稚園で作った梅ジュースと一緒に美味しくいただきました。



1

野菜の苗植え



2

野菜の収穫



3

今年度は野菜が豊作



4

収穫した野菜でピザをトッピング



5

収穫した野菜を使ってピザパーティー





②米袋を再利用して野菜の栽培

今年度は、畑での野菜の栽培だけでなく、米袋を再利用して、さつまいもと大根の栽培に年中児が挑戦しました。「お米の袋で野菜が出来るかな？」と苗や種を蒔いてから、毎日水やりを欠かさずに行いました。朝一番に水やりをしては「まだ芽が出ない…」「やっと芽が出たよ!!」「もうお芋出来たかな？」などと収穫の日を子ども達は楽しみにしながら、野菜の世話をしていました。さつまいもを収穫した時には、予想以上に育ったお芋に大喜び!!収穫したさつまいもを後日スイートポテトにして美味しくいただきました。

また、大根は毎年、園外保育で農園に出向き、大根抜きを経験していますが、今年は育ていく過程を幼稚園で見る事が出来ました。大根も種を蒔いてから「もう芽が出たかな？」と興味関心を持って観察していました。



1

「早く芽が出ないかな…」



2



3

「やっと芽が出たよ!!」



4

さつまいもの収穫



5

収穫したさつまいもを使ったスイートポテト



6



③ 廃材を利用した作品制作（版画・張り子等）

今年、年長児が9月の取り組みとして、敬老の日の祖父母に送るハガキ作りで、家庭から古い毛糸や使わなくなった毛糸を集め版画を作りました。1本の長い毛糸を顔のパーツの必要な分だけハサミで切っていく、上手く台紙に貼り合わせ世界にひとつだけの版画を作成しました。作成した版画をハガキにスタンプし、素敵なハガキが完成しました。「おいちゃん喜んでくれるかな?」「○○ちゃんに似てるね」など期待や友達の作品に興味を持って活動に参加していました。また、張り子作りにも挑戦し、友達と一緒に力を合わせながら張り子を作っていきます。新聞紙を細



かく切り、糊に浸してから風船に貼り付けたり、使わなくなった半紙を上手く貼っていきながら風船が見えなくなるまで貼っていきました。数日間乾かしてから風船を割ると綺麗な張り子が完成!!「風船の形のまま残ってる!!」と子ども達は初めて作る張り子に目を輝かせていました。作品展の時期には、毎年家庭から空き箱・トイレットペーパー芯・ペットボトルキャップなどの廃材を集め、それらを使って全学年で作品作りを行っています。自分の作りたい物をイメージして毎年素敵な作品が子ども達の手によって出来上がります。また、作品展でも張り子を使って素敵な作品を作ることも出来ました。



使わなくなった毛糸を使って版画を制作



廃材を使った張り子の制作



廃材を使った工作



④ 幼稚園内でのごみの分別強化

幼稚園では、日々の保育の中でも身近な環境の大切さに興味関心を持てるようにしています。その中でも、子ども達が日頃から出来ることとして、ごみの分別に取り組んでいます。保育室のごみ箱はプラスチックごみ用のごみ箱と燃えるごみ用のごみ箱を設置しています。またごみ箱には子ども達でも分かるように動物のイラストと共にプラスチックごみのマークなどを表示したものを張り付け、視覚的にもどちらに捨てるのが分かるようにしています。パン給食の日には、牛乳パックに描いているプラスチックごみのマークを見て、「ストローとストローの袋はプラごみでしょ？」と子ども達自ら確認を行い、分別している姿が年長児では見られます。年中・年少児もしっかりと保育者にどちらに捨てるのか確認をして分別を行っています。また、牛乳パックも小さく折りたたみごみをコンパクトにまとめて捨てるようにしています。



分別が判りやすく工夫されたごみ容器



しっかりごみ分別をする園児



分別された牛乳パック



## 6.2 光華小学校

### ① エコクッキング（家庭科の調理実習）

大阪ガスのエコクッキングのインストラクターをお迎えしての調理実習を行いました。ろうそくに火を灯し、具材を炙ることによって「火」というものにじっくりと向き合い、便利なガスコンロなどはちがう「火の扱い」を体験することができました。日ごろ、身近に意識することのない資源、エネルギーというものを考える機会となりました。

また、作物が作られ、加工され、運送され…という過程を考えることでいかに目には見えないエネルギーが使われているかという学習をしました。そしてそのエネルギーを無駄に使わないようにするためにはどうすればよいかを考えました。



大阪ガスのエコクッキングのインストラクターを迎えた授業



「火」というものにじっくり向かい合う



ガスコンロの火とろうそくの火はどちらがうかな？



具材をほとんど捨てることなく使って味噌汁を作りました。捨てるような部分も上手に使って簡単にふりかけも作りました。どちらもごはんに合ういい味です。また新聞紙で作った生ごみ入れを使うなどあらゆる場面でエコを取り入れました。ヘルシーでボリュームもあり、おいしいパンケーキ作りも行い、具材や作り方など簡単にエコを意識した取組を年間通じて行いました。





② ペットボトルを利用した生活科の学習（アサガオ栽培等）

ペットボトルを利用してアゲハの幼虫を飼い、成長していく過程を観察しました。卵から見逃してしまうほどの小さい幼虫が出てきて、脱皮を繰り返し、どんどん大きくなっていきます。ペットボトルでもちゃんと蝶が育っていく様子に興味津々で向き合っていました。最後は立派に蝶になり、飛び立っていきました。

また、アサガオの水やりにじょうろとして利用し、子どもたちは、毎日楽しそうに水やりに勤しんでいました。夏には美しい花をたくさん咲かせてくれました。

その他おもちゃ作りにも利用するなどペットボトルを生活科のあらゆる場面で活用し、子どもたちにとって「エコ」を日常的に実践できる1年間になりました。



ペットボトルの中で育つアゲハのさなぎ



ペットボトルを使ったアサガオ栽培



ペットボトルの中でアゲハの羽化に成功





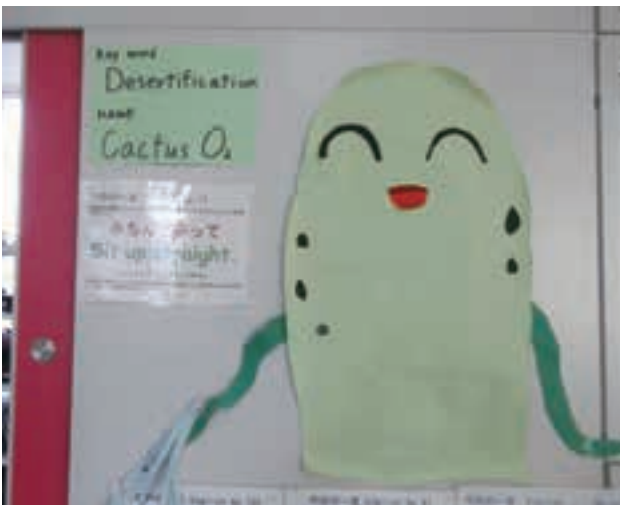
③ 授業（図工・英語）におけるエコをテーマにした学習

秋祭りにおいてダンボール箱を使ってお店を作り、小学生が幼稚園児たちをもてなしました。いつもなら廃棄する使用済みのダンボール箱を集めて図工の創作活動に利用しました。子どもたちはチーム毎に知恵を出し合い、想像力豊かに造形遊びをしました。普段の授業とは一味違う解放感の中での有意義な時間でした。

5年生の英語のタスクとして環境ロボットを作りました。これも使用済みのダンボール箱を使って取り組みました。子どもたちなりに環境改善を考え、楽しくロボット作りを行いました。英語活動と環境教育とをうまくリンクさせた学習になりました。



使用済みダンボール箱を使ったお店



使用済みダンボール箱を使って英語ロボットを制作



④環境委員会による取組

今年度初めての試みとして、各家庭のエコに関する取組をアンケートの形で答えていただきました。委員会で集計をして結果を発表し、今後のエコ活動の取組を喚起します。

子どもたちのみならず、ご家族のご協力を得ながら意識づけをするという意味合いもあり、学校から（子どもたちから）発信して、ささやかではありますが家庭へ、そして地域社会へと広げていけるような取組であればと思っています。環境委員の子どもたちは、集計活動を通して自分自身のエコ活動のことや自分のクラス、ひいては光華小学校全体の傾向を把握することができたので、エコ活動推進の自覚のようなものも湧いてきたと思います。

全校児童は、アンケートに答えるという形で改めてエコについてご家族と共に考える機会になったのではないかと思います。普段の生活を具体的な観点を設定して見直すことで客観的に振り返ることができ、自分のできる範囲での課題が見つかったのではないのでしょうか。今後もこのような機会を持ち、エコ活動の推進を行っていきます。環境委員が軸となって全校にエコの輪が広がっていきなすきっかけになったことと思います。

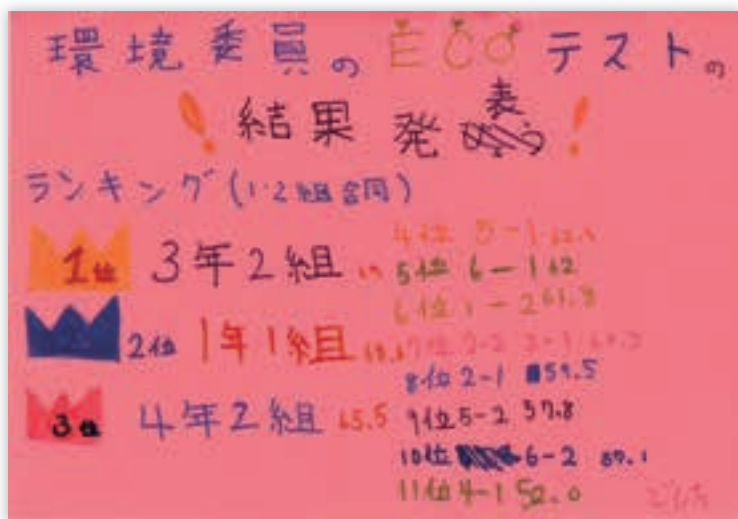
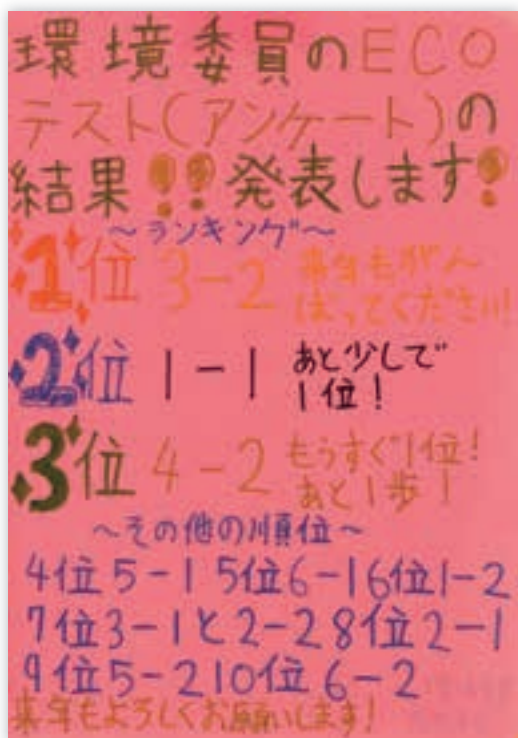
光華小学校 ECO テスト

\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_組

次の質問に、○(YES) か×(NO) で答えてください。

質問	答え	採点
外出時、部屋や廊下の電気を消している。		
誰もいないのに電気をつけている部屋がある。		
冷蔵庫のとびらの開閉時間を短くするように心がけている。		
テレビを見ていないのにつけっぱなしのことがある。		
クーラーより扇風機を使う。		
家で窓をあけてすごしている。		
トイレの水を大と小に分けて流している。		
手洗い、歯磨きのとき水を出しっぱなしにしている。		
お風呂の水を洗濯に利用している。		
牛乳パックを再利用に出している。		
エコバックを使っている。		
いらなくなったものをフリーマーケットに出したことがある。		
古くなった服をぞうきんなどに再利用している。		
ペットボトルを水筒にして再利用している。		
サイズの合わなくなった服など知り合いにゆずったことがある。		
新聞広告の裏面をメモ用紙にしている。		
食べ物を残さずに食べることを心掛けている。		
ゴミの分別をしている。		
家で野菜や植物を育てている。		
車よりも自転車を使うようにしている。		

各家庭にエコに関するECOテスト（アンケート）を実施



ECOテスト（アンケート）の結果を校内に掲示





## 6.3 京都光華中学校・高等学校

### ①環境美化委員ごみ分別チェック隊

昨年度から取り組んでいるごみ分別チェック隊を今年度も行いました。分別意識の向上への取り組みに加えて、今年度は新たに「分別ができない、分別意識“以外”の原因」を探ることを重点に置いて検討を行いました。その中で「ごみ箱の形が同じだから注意しないとわからない」という点が挙げられ、視覚優位で、さらにごみ箱の文字にまで意識は向かないと推測し、文化祭ではごみ箱に「色」を使うことで分別率を上げることができました。

この結果を踏まえ、3学期を使って環境美化委員や生徒会ではごみ箱の改革を検討しています。



文化祭で実験的に行なった色によるごみの分類



昨年度に引き続き分別チェックを行なったときの様子

### ②KSPバイオエタノール講座

KSPとは光華サイエンスプログラムの略で、理科好きの女子を育成するため、大学や企業との連携により理科の学習活動を行う光華高校独自の教育プログラムです。

今年度は長浜バイオ大学から講師をお招きし、6月にはバイオエタノール（植物資源を発酵させてつくるエチルアルコール。植物は、大気中からCO<sub>2</sub>を吸収する光合成を行うため、燃焼時にCO<sub>2</sub>を排出しても大気中の総量は増えないとみなされる。（カーボンニュートラル））と昨今のエネルギー問題をテーマにお話をいただき、実習としてグルコメーターを使った糖度の測定方法を身に付けました。バイオエタノールが注目されている理由や、生成の原理を踏まえ、夏休みには実際にバイオエタノールを生成する実験を行いました。圧力条件や発酵時間の都合で多くを得ることはできませんでしたが、指示薬を用いた方法で生成量を求め、実際の生成効率を求めることで、その低さから生成・精製の大変さが身にしみたと。これをきっかけに、実際に自ら検討した素材でバイオエタノールを作ってみようと、KSPの自身の研究テーマに持ち込んだ生徒もおり、エネルギー問題に着手するには充分なきっかけとなっていたのではないのでしょうか。

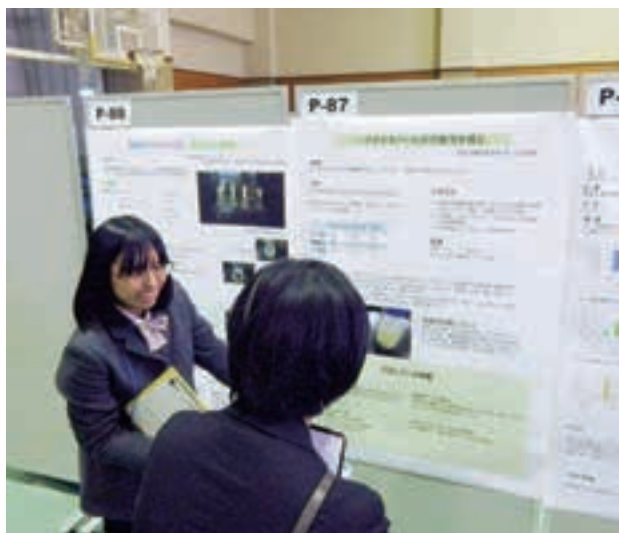


指示薬を使ってエタノールの検出を行った時の様子。赤い部分が生成したバイオエタノール。生徒は生成の難しさを実感した様子。





加水分解して生成したと思われるグルコースの水溶液を絞り出している様子。回収率を上げるため全力で絞っています。



この実験を含む一連の成果は12月に行われたサイエンスキャスル（中高生のための学会）にて報告。

### ③ KSP放射線疫学講座

6～8月の計3回に渡って、京都大学とNPO法人あいんしゅたいんから講師をお招きし、放射線の見方・考え方とデータの扱い方、データの評価の仕方を学びました。専門家と対話をしながら、情報を鵜呑みにせず、科学的根拠に基づく客観的な評価をする方法を学び、放射線を「数値から」「客観的に」判断する力を身につけることができました。

「放射線は当然危険。ただみなさんはそれがどの程度なのかを知るSv(シーベルト)をはじめとした【ものさし】を持ち、使うことができます。」という講師の角山先生の言葉は、科学に対して正面から真摯に向き合うような姿勢を感じ取ることができ、生徒にも大きな影響を与えてくださったと確信しています。専門家との議論は終了予定時刻を過ぎてもヒートアップしたままでした。疑問を解決するとまた新たな疑問が生まれます。これを繰り返すことこそ「探し究める」探究のあり方なのかもしれません。



実際に測定器を使って遮蔽効果を確認する様子





### 4 KSPエコセッケン計画

昨年度までのKSPは、放射線疫学とバイオエタノールの2つを大テーマとして活動を行っていましたが、本年度のKSPは班ごとの主体性をより強調し、テーマも自ら設定できる環境をつくりました。その中で、「廃油セッケン」を科学的に分析し、理想の廃油セッケンを合成する、また簡単な薬品で廃油石けんの弱点、デメリットを除去する方法を考察するような研究テーマを一部のメンバーが始めました。まずはセッケンとして油脂をけん化することができる条件を求め、その上で材料の配合比や添加物を検討することで、段々と実際に使うことができそうなセッケンに近づけていきました。まだまだ理想には遠いですが、少しずつ条件を評価し、廃油セッケンの校内での実用化に持ち込むのが目標です。

右上の写真に示すように、原料となる廃油は同じ組成のはずですが、結果が大きく異なっていました。どこに原因があるのか、予想し、少しずつデータをずらして検証していかなければいけません。

さらに、よいものが完成することも大事ですが、実用化を目指す以上時間面での効率も考えなければいけません（右の写真）。

ひとまずの中間報告として、平成28年12月に行われたサイエンスキャッスルにてポスター発表を行いました。今後の展開にも期待が持てます。



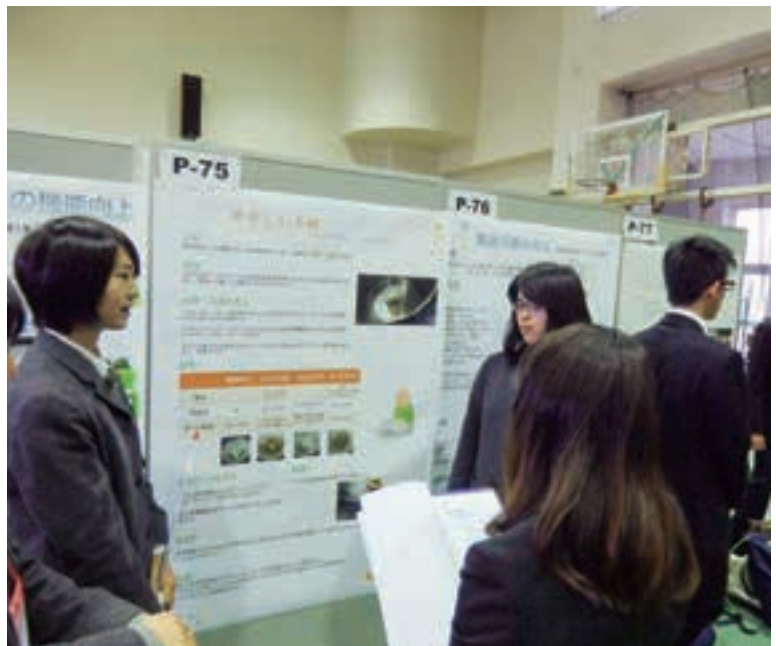
生成した廃油セッケン。同じ配合比でも作業工程での誤差が原因で異なる性質のセッケンが合成されてしまうことが課題



合成中の廃油セッケン。合成に時間がかかることが課題

※サイエンスキャッスル

株式会社リバネス主催の中高生向け学会。これから研究に取り組もうとする中高生が集まり研究成果などを発表する場。大学及び企業の研究者からの審査、フィードバックもあり、研究力の向上が図られる。



12月に行われたサイエンスキャッスルにて報告



## 6.4 京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部

### ① 京都府立東稜高等学校との連携事業

本学と東稜高校との環境教育に関する連携は、大学コンソーシアム京都が主催する「実践研究共同教育プログラム」から開始され、平成26年度からは独自の高大連携事業として継続して現在に至っています。この事業は主に、大学教員が高校で授業を実施する形式、高校生が本学にて大学教員の授業を受ける形式、大学生が高校にて緑化活動を協働で行う形式の3つの形式があります。平成28年度もこの内容で環境教育を展開してきました。

最初は本学教員が高校で環境問題に関する授業を実施しました。今回のテーマは「エネルギー問題～30年のエネルギーは何が使われているか～」。教員が高校生に対して質問をしながら授業を進めるアクティブラーニング形式で実施しました。授業では、各種エネルギーのメリット・デメリットを詳細に解説し、「原発再稼働に賛成ですか、反対ですか？」と、授業の前後で質問したところ、授業前（賛成55%、反対45%）であったのに対し、授業後（賛成78%、反対22%）という結果になりました。このような質問に正解はなく、私たちの生活にかけがえのないエネルギーの問題を「考え続ける」ことが大切であることを伝えました。



東稜高校での本学教員による授業

次に、高校生が本学にて授業を受けました。ここでは、東稜高校生が1年間かけて育ててきたブルーベリーの実を使って、色素増感太陽電池（植物などの色素をつかって作成された太陽電池）を作成し、発電実験を行いました。そして、みごと電池としての性能を確認することができました。また、毎年恒例となっている屋上庭園での記念撮影も行いました。



本学屋上庭園にて記念撮影

最後に、本学学生と高校生が協働で校庭の緑化活動を実施しました。東稜高校には、幅0.5m×長さ2~10mのグリーンベルトが5ヶ所と、エントランスにプランターが6つ設置されており、これらが緑化対象となっています。これらの場所に、毎年、夏の花と冬の花をその季節ごとに植えています。



本学学生と東稜高校生による緑化活動の様子





②科目「シチズンシップ」における環境教育

大学全学科の必修科目「シチズンシップ」では、論争的課題をテーマに話し合い学習を通じて、積極的に社会に係わることができる人材育成を目標のひとつにしています。いくつかの論争的課題の中にはエネルギー問題に関する内容も含まれています。この科目では、全15回中、エネルギー問題について90分×4回を占めています。ここでは、「原発再稼働に賛成ですか、反対

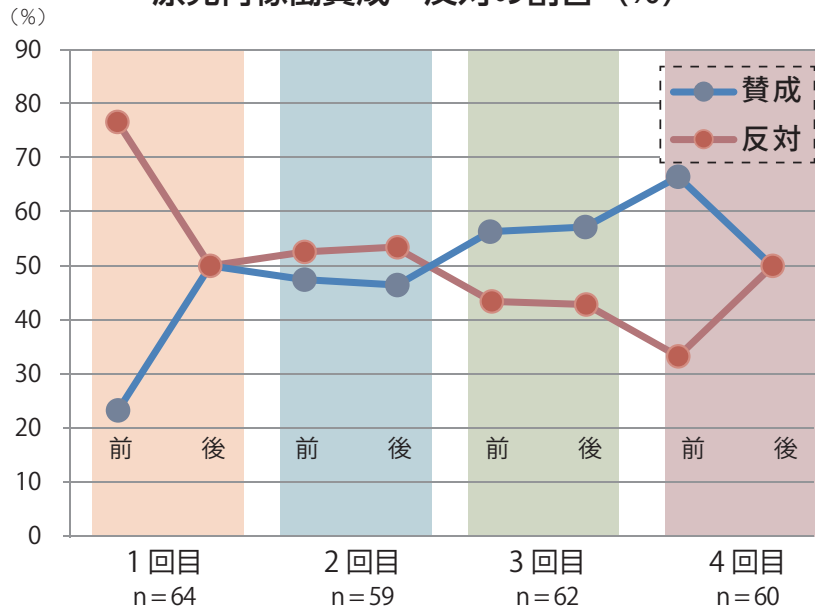
ですか?」「30年後のエネルギーには何がメインで使われていると思いますか?」という質問に対する学生の意識変化、「あなたが考えるエネルギーベストミックスは何ですか?」「エネルギー政策だけを見るとあなたはどの政党を支持しますか?」という質問に対する学生の考えを紹介します(結果は2学科の合同クラスのみ)。

まず、「原発再稼働に賛成ですか、反対ですか?」という質問について、毎回の授業の前後における結果を見てみると、最初の授業開始前では、賛成が23%に対し、反対が77%であり、原発再稼働に反対する学生の割合が大部分を占めましたが、授業後には、賛成50%、反対50%

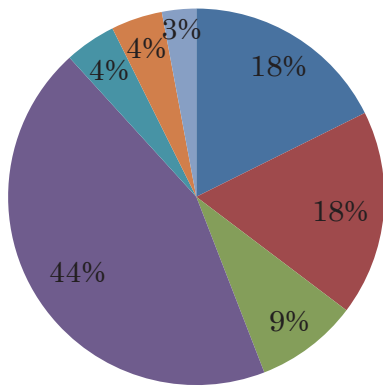
なっていました。最初の授業では各種エネルギーの発電コストについて、太陽光などの再生可能エネルギーの割合が原発や火力発電に比べて高いことを示したからかもしれません。次に2回目の授業では、日本が極めて地震が起こりやすい地形であることを説明しました。すると、反対の数がわずかに増えました(賛成47%、反対53%)。そして、3回目の授業では、エネルギーベストミックス(火力、原子力、太陽光、風力、地熱、シェールガス等の様々な電源について、これらのメリット・デメリットを生かし効率よく組み合わせる供給すること)の概念と現政府が発表している2030年のエネルギーベストミックスを紹介しました。現政府は、原発再稼働を肯定し、2030年に原発が占める割合を20%まで増やす計画であるという事実を学生なりに理解した結果かもしれません。最後の4回目の授業では、再生可能エネルギーに関する固定買取制度について説明しました。すると、授業後の質問では、賛成50%、反対50%となり、1回目授業終了後の意見と同じになりました。

次に、「30年後のエネルギーには何がメインで使われていると思いますか?」という質問に対して、1回目の授業開始前は、太陽光(44%)、原子力(18%)、火力(18%)でした。しかし、授業後には、太陽光(13%)、原子力(52%)、火力(11%)となり、太陽光と原子力が逆転し、原子力が全体の5割を占めました。これは、1回目の授業で、太陽光の発電コストが原子力や火力と比べて高いことを説明したことが影響しているのかもしれません。また、火力の割合の減少は、CO<sub>2</sub>排出に起因する気候変動を授業で提示したことが考えられます。一方、3回目の授業後では、太陽光(37%)、原子力(31%)、火力(10%)で全体の8割を占めていました。この理由は、2回目の授業で、日本が他国に比べて極めて地震が起こりやすい環境であることや、エネルギーベストミックスで各種エネルギーを効率よく組み合わせる仕組みを学んだため、コストや安全性などを総合的に考えたからかもしれません。そして、4回目の授業最後の質問結果では、太陽光(34%)、原子力(44%)、火力(8%)となり、太陽光と原子力と火力で約9割を占める結果となり、太陽光、または原子力をメインに考えるという結果になりました。この結果は、先の質問で4回目の授業後の原発再稼働に賛成50%、反対50%という結果に連動しています。

原発再稼働賛成・反対の割合(%)

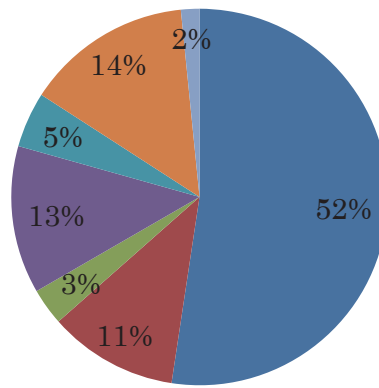


授業毎の「原発再稼働に賛成ですか、反対ですか?」という質問に対する賛成・反対割合の推移



授業前

- 原子力
- 火力
- 風力
- 太陽光
- 地熱
- 水力
- その他

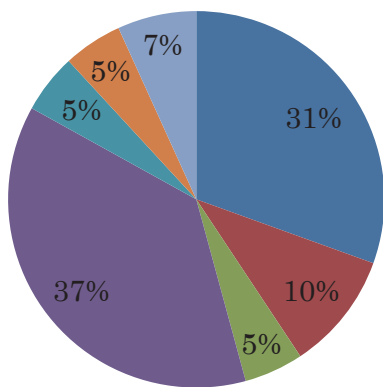


授業後

- 原子力
- 火力
- 風力
- 太陽光
- 地熱
- 水力
- その他

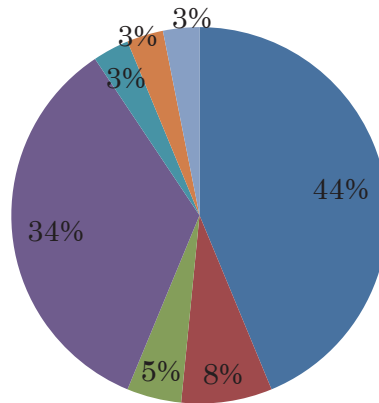
1回目の授業における「30年後のエネルギーには何がメインで使われていると思いますか？」という質問における授業前後の変化

続いて、「あなたが考えるエネルギーベストミックスは何ですか？」という質問に対して、階層分析法（AHP）を



3回目の授業後における質問の結果

- 原子力
- 火力
- 風力
- 太陽光
- 地熱
- 水力
- その他



4回目の授業後における質問の結果

- 原子力
- 火力
- 風力
- 太陽光
- 地熱
- 水力
- その他

使って、学生全員に自分が考えるエネルギーベストミックスを算出していただきました（4回目の授業途中）。この階層分析法は、エネルギーを選択する上での判断基準を「安全性」「経済性」「将来性」の3つに限定し、まず、この3つの判断基準に10点満点で重み付けをします（例えば、経済性重視で、安全性も少し気になるとう人の場合、安全性3点、経済性5点、将来性2点）。次に、各種エネルギーについて、この3つの項目から考えるとどうい配点になるかを考えます（例えば、安全性で考えると原子力は危なく太陽光は安全と考える人の場合、原子力0点、火力1点、風力2点、太陽光3点、地熱2点、水力2点）。この重み付け点数と各種エネルギーの点数を掛け合わせて、ベストミックスにおける各種エネルギーの割合を算出します。すると、原子力（21%）、火力（14%）、風力（16%）、太陽光（22%）、地熱（13%）、水力（14%）となりました。この結果から、原子力や太陽光をベース電源として考え、火力や他の再生可能エネルギーもバランスよく使用していきたいという学生の考えが伺えます。

最後に、「エネルギー政策だけを見るとあなたはどの政党を支持しますか？」という質問に対する学生の考えを同様のAHPを使って算出しました。すると、自民党（22点）。民進党（21点）、公明党（18点）、共産党（22点）、社民党（18点）となりました。これらの政党の中には、原発を推進する政党、明確に原発廃止を公約する政党、原発廃止でも表現の仕方が強いものや弱いものなどさまざまですが、点数がほぼ均等に割れたことは、最後に質問した原発再稼働に賛成50%、反対50%という結果に連動しているようです。

③ 科目「地域環境学」におけるフィールドワーク

大学基礎・教養科目「地域環境学」では、私たちの生活に近い環境問題をテーマに、「右京区京北地域における農林業の鳥獣被害」と「グリーンコンシューマー」をテーマとして、実践的な学習を実施しました。

一つ目のテーマは、「右京区京北地域における農林業の鳥獣被害」。本学が立地する右京区は京都市内の区の中でも面積が最も大きく、区西部や北部（京北地域）は山間地となっています。そこでの産業の中心は農業と林業であり、近年のシカ頭数の増加に伴う被害に苦しんでいます。授業では実際に、京北地域を訪問し、鳥獣被害状況を調査すると同時に、現地で農業を営む方から直接、お話を伺いました。お話を詳しく伺うと、シカ被害の状況と地域の人口減少の関係が見えてきました。また、フィールドワーク中では農業体験もさせていただきました。なお、この授業はNPO法人フロンティア協会徳丸國廣氏のコーディネートにより地域の方の協力を得て毎年実施されています。

2つ目のテーマは、「グリーンコンシューマー」。グリーンコンシューマーとは、環境に配慮した行動をする消費者のこと。例えば、環境に配慮した製品が通常の製品より高価であっても、あえて購入するという環境保護意識の高い消費者のことをいいます（EICネット：環境用語集）。授業ではNPO法人環境市民の下村委津子氏をお招きし、グリーンコンシューマーに関する授業の後で、「買い物ゲーム」を実施しました。このゲームは、机の上にチョコレート菓子やバター、牛乳、衣類などの商品を複数並べて、環境により製品を選んでいくというもの。例えば、チョコレートひとつでもたくさんの種類がありますが、どこで栽培されたカカオが使われているのか、そのカカオはフェアトレードによって購入されているものなのか等の観点から選んでいきました。容器包装類に記載された情報を詳しく見てみると、どの製品が環境にやさしいものなのかが見えてきました。



右京区京北地域にて農作物の鳥獣被害状況を調査



地域の方から農作物の鳥獣被害状況を直接伺いました



買い物ゲームを通じてグリーンコンシューマーについて学ぶ学生





## 6.5 地域と連携した環境活動

## ①「京☆しかミーツ」による鹿肉料理研究活動

京☆しかミーツの活動は今年で4年目を迎え、学生17人で「防ごう被害 作ろう笑顔 おいしかクッキング」というテーマで活動しています。1年目から続けている活動としては、鹿肉料理教室や地域のイベントへの出店があります。鹿肉料理を試食販売することにより、多くの方に鹿による森林や田畑への被害の実状を伝え、森の資源である鹿を有効活用しようとアピールしてきました。もちろん、鹿肉は低脂肪、高たんぱく質で鉄分を多く含んでおり、とてもヘルシーなお肉です。ここ数年、新聞やテレビで“ジビエ”や“猟師”という言葉を増える機会が増えてきましたが、まだまだ一般の方に知られていないのが現状です。

今年は9月右京区北梅津地区の敬老福祉まつり、11月右京区ふれあいフェスティバル、あかね祭（京都光華女子大学祭）12月京都林業大学校学祭、京都高雄マウンテンマラソンに出店し、鹿肉コロッケや鹿肉のつみれスープを販売しました。はじめて食べた方からも“思っていたより食べやすい”“とてもおいしい”などの感想をいただきました。これらの地域のイベントに参加する活動はとても地味ですが、鹿肉をなぜ食べるのか、鹿肉はおいしいという事を一般の方に知っていただくには、最良の方法だと考え大切にしています。



敬老福祉まつりで鹿肉コロッケを販売



右京区ふれあいフェスティバル 鹿肉をアピール



林業大学校大学祭におじゃましました。



お餅つきに参加し、きなご餅をいただきました。

## 各校園の環境教育・環境活動

この他、勉強会として今年は兵庫県丹波市の食肉加工施設の見学、鹿肉専門レストランでのプロの料理の試食、新メニュー開発のための試作会などを行いました。施設を見学していた最中に、1時間ほど前にしとめられた鹿が軽トラックの荷台につままれて施設に到着し、解体の一部始終を見学させていただき、命をいただいているという事をメンバーひとりひとり、深く実感することになりました。



食肉加工施設を見学



新しいメニューの試作中

また今年はキリンビール主催、京都・滋賀学生ジビエ料理コンテストに鹿肉はるまきで応募し、書類審査を通過、7月に行われた実際の料理審査で8チームの中から優秀賞をいただきました。京都市内のお店で2週間販売された事は本当に嬉しく、みんなでお店に食べに行きました。1年の活動の最後のしめくりは、大きなイベント「エコしかッキング」です。本番まであと2週間、参加してくださった方に満足していただけるよう、しっかり準備をすすめていきます。

昨年は料理の試食以外でのアピール方法として私たちの活動を紹介するDVDを作成し、いろいろな場所で上映しました。今年は右京区を拠点に活動している他のグループとのコラボ企画の実現にむけて、京都学園大学 京學堂のみなさんと何度もミーティングを重ねています。まだ、形が見えませんが、来年度へ引き継ぐ予定です。



京都・滋賀学生料理コンテスト2016 鹿肉はるまきで優秀賞を受賞





②「竹サークル」による竹林整備事業

本学では、平成24年から、京都府向日市観光協会が主催する「竹の径・かぐやの夕べ」に協力・参加しています。このイベントは、伐採した竹を筒状に切り、その中に水とろうそくを入れて、夜の幻想的な風景を楽しむものです。竹は、2〜3ヵ月で20m以上も成長するため、放置竹林の拡大による生態系の崩壊や土砂崩れなどの災害が増えつつあります。このため、竹を伐採して竹林を整備することが重要となりますが、竹産業の衰退や職人の人口減少により、竹林整備は極めて困難な状況にあります。



フィールドワークにて放置竹林問題を学ぶ学生

そこで本学では、学生有志団体である「竹サークル」が、このかぐやの夕べイベントに参加・協力すると同時に、自主的に竹の生態系などを学習し、これらのイベント参加や学習した内容を右京区民ふれあいフェスティバル（京都市右京区主催のお祭り）にて、ブース展示をしてきました。今年度は、さらに、本学から2名の学生がイベントを盛り上げるかぐや姫役となり、さらに、向日市の地域活性化を目的としたポスターにもモデルとして一役買わせていただきました。



「竹の径・かぐやの夕べ」の準備。伐採した竹に水とろうそくを入れ、火を灯す学生



向日市PRのモデルに学生を起用したポスター。JR・私鉄の京都線各駅、電車広告などに使用されました。





③ 公開講座「地球環境問題」

本学にて「地球環境問題」をテーマにした公開講座を2部構成で開催しました。第一部は本学准教授 高野拓樹による演題「地球環境クライシス～未来のエネルギーを考える～」。「原発を再稼働させるか否か？」この問題は電力会社と地域住民との裁判にまで発展し、裁判官でも意見が分かれる状況です。本講座では、このエネルギー問題を地球環境問題の側面からメスを入れ、来場いただいた方にアンケート方式でリアルタイムに意見を伺いながら進めました。

第二部は、気象予報士で、テレビ番組の気象コーナーも担当された経験のある西池沙織氏に「異常気象と私たちの生活～お天気お姉さんの天気予報～」と題してお話いただきました。ここ数年、ニュースや天気予報などの報道で、「観測史上最高」という言葉を耳にします。気象庁によると、異常気象の定義は「30年に一度」とありますが、この異常気象が毎年起きている状況です。本講座では、日本や世界におけるこれまでの異常気象の具体的事例を紹介し、これらの異常気象の原因となる海水温の変化（エルニーニョ現象やラニーニャ減少など）を詳細に解説していただきました。最後には、今年の冬の気象について予想いただき（この講座開催日は平成28年10月）、現在（平成29年2月）の全国的な積雪などを見事に当てていただきました。

本学公開講座は、このような地域の方の生活に密接した内容をテーマに今後もさまざまな情報を提供させていただきます。



今年度の公開講座テーマは「地球環境問題」



ゲストスピーカーとして気象予報士の西池沙織氏を招聘



テレビ番組の気象コーナーのスタイルでご講義いただきました



④ エコクッキング～大根一本使い切れ～

平成29年2月7日（火）本学において、料理コンテスト「エコクッキング～大根まるごと一本使いきれ！～」を開催しました。本コンテストは、食材を無駄なく有効活用するとともに、ゴミの出ない環境に優しい料理のレシピ考案・実際の調理を通じて、料理の楽しさを体験するとともに、日常生活における環境に配慮する意識づけを推進するために、本学 健康栄養学科・キャリア形成学科と京都市ごみ減量推進課との共催で開催しました。



今回テーマとなる食材は、冬の食材の代表格である「大根」。この大根を丸ごと一本使用し、コンテスト形式でごみの出ない美味しい大根料理を競い合いました。当日は、日々栄養学を学んでいる健康栄養学科の学生や教職員、一般の方など6チームにご参加いただき、味や見た目の美しさ、調理の手軽さ、ごみの出ない工夫などが審査されました。

「エコクッキング」というテーマにふさわしく、普段は生ごみとして捨ててしまうような葉や皮もスパゲティに混ぜたり、油で揚げてチップにしたりと、エコ意識の向上と環境を考えながらのコンテストとなりました。参加者もお互いの作った大根料理を試食し、「他のチームのアイデア料理に感心した。大根の葉や皮もとても美味しく、他の食材でも試してみたくなった。食品ロス削減への意識が高まった」等の意見が聞かれました。

コンテスト後は、京都市ごみ減量推進課の方より「食品ロスの現状」についてご講演いただき、「食品ロスを減らすためには、私たち一人ひとりが意識し、行動することが必要だ。エコクッキングで学んだことを、今後も継続して行っていただきたい。」と、本コンテストを締めくくりました。

本学では今後も、社会問題や環境問題といった地域が抱えるさまざまな課題を、教職員や学生などの人材を始め教育研究活動で培ってきたさまざまなノウハウなどの知的財産を活用し、京都市や右京区など地域と連携しながら社会貢献を進めていきたいと考えております。



各チームが調理した大根料理。おいしさはもちろん、どれもごみを出さない工夫がされています。

# Koka's Heart\*

よりそい 育む  
一人ひとりをしっかりと

## 著者一覧

阿部 敏行 (学園長・理事長)	濱田 明美 (短期大学部ライフデザイン学科)
石橋 智子 (幼稚園)	鹿島 我 (短期大学部ライフデザイン学科)
川西 啓史 (小学校)	間浦 幹浩 (中学校・高等学校)
新村 拓生 (学園運営部)	柴田 典子 (地域連携推進センター)
高野 拓樹 (キャリア形成学部キャリア形成学科)	吉田 咲子 (キャリア形成学部キャリア形成学科)

## 地域連携推進センター教職員

橋口 美智留 (健康科学部健康栄養学科)	井川 啓 (短期大学部ライフデザイン学科)
石谷 みつる (健康科学部心理学科)	南 多恵子 (健康科学部医療福祉学科)
柴田 典子 (職員)	高野 拓樹 (センター長)
谷 正流 (副センター長)	徳永 基与子 (健康科学部看護学科)
和田 幸子 (こども教育学部こども教育学科)	吉田 咲子 (キャリア形成学部キャリア形成学科)

## 環境教育推進室教職員

石橋 智子 (幼稚園)	川西 啓史 (小学校)	間浦 幹浩 (中学校・高等学校)
新村 拓生 (学園運営部)	高野 拓樹 (大学・室長)	

---

京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部 地域連携報告書  
光華女子学園 環境報告書 平成28年度版

平成29年3月

編集・発行 京都光華女子大学 地域連携推進センター 環境教育推進室  
光華女子学園 学園運営部

〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38  
URL: <http://www.koka.ac.jp/crc/> (地域連携推進センターHP)

本環境報告書へのご意見・ご感想をお待ちしております。  
お問い合わせ: <http://www.koka.ac.jp/crc/contact.html>



地域連携推進センターHP





学校法人光華女子学園

---

京都光華女子大学大学院

京都光華女子大学

京都光華女子大学短期大学部

京都光華高等学校

京都光華中学校

光華小学校

光華幼稚園